

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX(011)706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉
浅香 正博
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「医学部百年記念館」外観

CONTENTS

- (1) 医学部創立100周年記念事業は無事終了しました。同窓会はこれからも医学部を支援続けます。
(2) 2019年10月7日 北海道新聞27面掲載広告
(3) 「北海道大学医学部百年記念館 落成式」に寄せて
(4) 北海道大学医学部百年記念館 施設紹介
(5) 北海道大学医学部創立100周年記念式典・記念講演会・祝賀会開催報告
(6) 北海道大学医学部創立100周年記念講演会要旨「次世代へのバトン〜アフリカ・アジア開発」
(7) 途上国での医療支援を経験して〜武井 弥生
(8) 北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力のお祝い
(9) 教授就任のご挨拶
(10) 新世紀の医学に向けて(37)
(11) エルムの仲間達へ⑨
(12) 医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第2回
(13) 医学研究院・医学院・医学部の国際交流
(14) 事務局からお知らせ
(15) 新刊書紹介
(16) 北海道医学会からお知らせ



医学部創立100周年記念事業は無事終了しました。同窓会はこれからも医学部を支援続けます。

北海道大学医学部同窓会 会長 浅香 正博(48期)

新年おめでとうございます。北大医学部創立100周年事業に際して北大医学部同窓会の皆様には本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。
2019年、10月12日、京王プラザホテル札幌にて北大医学部創立100周年記念式典が執り行われました。ノーベル賞の授賞式のような北大交響楽団の吹奏楽によるファンファーレで始まり、滞りなく記念式典が終了した後、記念講演会が開かれ、その後、会場を移して記念祝賀会が始まりました。祝杯のご発声は北大名誉教授でノーベル化学賞を受賞された鈴木章先生が務めてくれ、祝杯後は、なごやかな懇親の場が提供され20時過ぎまで200名を超える参加者同士で楽しく懇談することができました。
思い起こすと5年前、記念行事遂行のために当時の笠原医学部長と医学部創立100周年記念事業実行委員会を立ち上げ、その下に6つの小委員会を策定し、募金活動や記念誌の発行を企画、実行いたしました。その中でも最大の事業は北海道大学医学部百年記念館の新設でありました。2016年4月より募金活動を行って参りましたが、当初、集まりが悪く事業が完遂できるかどうかを心

配した時期もありましたが、2019年9月20日に完成し、10月8日に吉岡医学部長、笠原前医学部長とともに待望の落成式を行うことができました。斬新なデザインで北海道の木材を使用した木造作りの建物は北海道大学のキャンパスに見事に溶け込んでおり、同期会などが開催できる部屋も用意されております。また2階には医学部の歴史を語る立派なジオラマが設置されましたが、これは同窓会から記念館へ寄贈させていただきました。同窓生の皆様には是非一度医学部百年記念館を訪ねられることをお勧めします。
いよいよ2020年が始まりました。北大医学部は100年を経て新しい時代を迎えることとなります。どのような時代になるのかは誰にもわかりませんが、100年という大きな区切りを経ることができたことで大きな自信がわいてきたのではないのでしょうか。北大医学部同窓会はこれからも引き続き北大医学部とともに歩み、支援を続けたいと考えております。
最後になりますが、北海道大学医学部同窓会会員の皆様方のご健康並びにご多幸を心からお祈りし、年頭のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

医学部長・医学研究院長 吉岡 充弘(60期)

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては新年をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年7月27日にノーベル生理学・医学賞(2018)を受賞されました本庶佑先生を本学にお招きし、医学部創立100周年記念事業のオープニングを飾って頂きました。パネルディスカッションでは、「医学研究の未来像〜本庶先生にきく、次世代の医学研究・教育のありかた〜」と題し、基礎と臨床の両面から次世代の医学研究・医師養成のあり方等について活発な討論が行われました。
10月7日には北海道新聞朝刊に同窓生をはじめ、先人達への敬意を表した全面広告を掲載しました(次ページ)。翌10月8日は、念願の「百年記念館」の落成式を、浅香正博同窓会長(医学部創立100周年記念事業後援会長)をはじめ、長瀬清北海道医師会長のご臨席の元、挙行いたしました。この「百年記念館」は、北大メインストリートに面し、道産木材による木造二階建て(約800m)の重厚かつモダンな建物として、今後北大のレガシーとなっていくものと思っております。同窓会会員の皆様の情報交換の場として、大いに利用していただき

たいと思います。さらに10月12日の「記念式典」では、文部科学省、北海道ならびに札幌市からご来賓をお迎えし、また笠原総長職務代理をはじめ副学長・理事、部局長の諸先生、名誉教授、そして同窓生の皆様のご臨席を賜り、北海道大学医学部創立100周年記念式典(新たな100年への知の挑戦)を「京王プラザホテル札幌」において挙行いたしました。
これまで同窓会会員の皆様には複数回にわたり趣意書を差し上げ、本記念事業の概要を説明申し上げるとともに寄附のお願いをさせていただきました。これまでの同窓会会員の皆様のご厚情に医学部を代表して御礼申し上げます。
また、同窓会からは医学部建物の歴史を俯瞰できるジオラマを寄贈いただき、百年記念館の注目すべき展示物となりました。
これからも記念事業のもう一つの柱である「教育研究基金」の創設に向けて、鋭意努力して参る所存です。更なるご支援をお願いいたします。
新年が皆様にとりましてすばらしい年となりますことをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



北海道帝国大学医学部、北海道大学医学部を築立った
 9993人は、日本はもとより世界の前線で活躍しています。
 先人の崇高な志と多大な功績を受け継いで100年。
 世界をリードする先進的医学研究を推進し、
 高い倫理観と豊かな人間性を有する
 医学研究者・医療人を育てることにより、
 人類の健康と福祉に貢献してまいります。

先人の志を
 受け継ぎ、
 未来へ



北海道大学医学部 創立100周年

100th ANNIVERSARY
 HOKKAIDO UNIVERSITY
 SCHOOL OF MEDICINE
 1919-2019

“新たな100年への知の挑戦”



北海道大学医学部



北海道大学病院



医学部百年記念館



北海道大学 医学部

〒060-8638 北海道札幌市北区北15条西7丁目
 TEL.011-716-2111(北海道大学代表) FAX.011-717-5286

<https://www.med.hokudai.ac.jp/>

北大医学部

「北海道大学医学部百年記念館 落成式」に寄せて

北海道大学大学院工学研究院建築デザイン学研究室 教授 小澤 丈夫
都市地域デザイン学研究室 准教授 小篠 隆生



小澤教授

小篠准教授

北海道大学医学部が創立100周年を記念して建設した本百年記念館は、同窓会館として多くの同窓生が集い、気軽に情報交換が行われる場として構想されました。本学の医学進展の歴史や研究成果などの情報を共有し、今後の医学に貢献する基礎研究の推進と、知の共創の場となることを目的としています。本計画は、2015年より医学部百年記念館小委員会の主導で進められ、長年美しく継承されてきた本学札幌キャンパスへの配慮から、サステナブルキャンパスマネジメント本部の助言を受け、工学研究院建築都市空間デザイン部門建築デザイン学研究室・都市地

域デザイン学研究室の教員と大学院生が、デザイン検討を行いました。

現代に残る様々な史料を読み解くと、医学部創設期の建物の多くが、様々な個性的なかたちの屋根を持っていたこと、当時の新奇性に富んだデザインが用いられた木造建築であったことに気づきます。そこで、まず本百年記念館のデザインコンセプトを、「同窓生を迎え入れるひとつの屋根」とし、同窓生が集い交流する場が、大きな屋根の下でひとつにまとまる建築をイメージしました。さらに、伝統を重んじつつ、たえず時代の先端を歩み続ける医学部の姿勢を表現するために、わが国の文

化において長い伝統をもち、近年、国内外の建築分野で新たな可能性と挑戦が注目されている木造建築としました。

この建物では、北海道産の木材を使用した現代の新しい架構表現として、生産・加工面から汎用性をもつ12cm幅のカラマツ集成材を主材とし、4本の材を束ねた組柱に、伝統的な寺社建築に用いられてきた“斗栱（ときょう）”の構法を柱頭に援用したものを組み合わせています。組柱は、2階の天井下まで梁を介さず吹き抜け空間に立ち上がり、また、中央通り沿いにたつ外部の樹木と呼応しながら、様々な出会いと活動の場となるホールを印象的な空間にし

ます。エントランス南側に伸びた大きな庇は、訪れる人を迎え入れる役割を担います。北国の気候に対し、快適な室内環境を担保する開口部の性能や設備システムを備え、意匠・構造・設備が一体化した建築デザインとしています。

本百年記念館が、これからの100年に向けた医学発展のプラットフォームになるとともに、将来にわたって本学札幌キャンパスの魅力を高める新たなランドマークとなり、医学部同窓生、教職員、学生はもとより、多くの皆様に親しまれる場となることを心より願っております。

北海道大学医学部百年記念館落成式 開催報告

去る2019年10月8日（火）、北海道大学医学部百年記念館落成を挙行了しました。当日は約90名の教職員、同窓生及び学生等が参列しました。

はじめに、吉岡 充弘 医学部長（60期）による式辞の後、笠原 正典 総長職務代理（56期）、秋田 弘俊 北海道大学病院長（57期）、浅香 正博 医学部同窓会長（48期）による祝辞が述べられました。続いて、施工業者等への感謝状贈呈、建築デザインを手がけられた工学研究院小澤 丈夫 教授による建築説明に引

き続き、関係者によるテープカットが行われました。

記念館は北海道大学大学院工学院学生のデザインを元に道産の木材をふんだんに使用し、メインストリートに面するガラス窓から北大の四季を感じられる建物となりました。館内には講演会、学会、会議、同窓会行事など多目的に使用できる設備を設け、次の100年に向けてさらなる医学の進展のため、知の共創の場として活用されることが期待されます。



落成式会場:北海道大学医学部百年記念館



テープカットの様子
左から:齋藤、秋田、笠原、吉岡、浅香、吉木



感謝状の贈呈を行う吉岡医学部長と小澤工学研究院教授



建物中央の階段途中に歴代医学部長・病院長の顔写真を望む



寄附者銘板に刻まれた名前を眺める参列者



医系建物模型を前に思い出を語る参列者

落成式次第

日時：2019年10月8日（火）午後1時30分～
会場：北海道大学医学部百年記念館 大会議室

一、開式

一、挨拶

北海道大学医学部長 吉岡 充 弘

一、祝辞

北海道大学総長職務代理 笠原 正 典
北海道大学病院長 秋田 弘 俊
北海道大学医学部同窓会長 浅香 正 博

一、感謝状贈呈

北海道大学大学院工学研究院教授 小澤 丈 夫
北海道大学大学院工学研究院准教授 小篠 隆 生

一、テープカット

北海道大学総長職務代理 笠原 正 典
北海道大学医学部長 吉岡 充 弘
北海道大学病院長 秋田 弘 俊
北海道大学医学部同窓会長 浅香 正 博
北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会

副会長 齋藤 和 雄
副会長 吉木 敬

一、閉式

「北海道大学医学部百年記念館」の利用について

北海道大学医学部同窓会員の皆さまは、医学部同窓会に関する行事のための利用であればあらかじめご予約いただいた上で原則無料でご利用いただけます。

なお、利用形態や予約状況等によってはご利用いただけない場合もございますので、ご予約の際は下記問合せ先

まで事前にご連絡いただけますようお願いいたします。

(問い合わせ先)
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
TEL/FAX: 011-706-5004/011-717-5286
E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

北海道大学医学部百年記念館 施設紹介

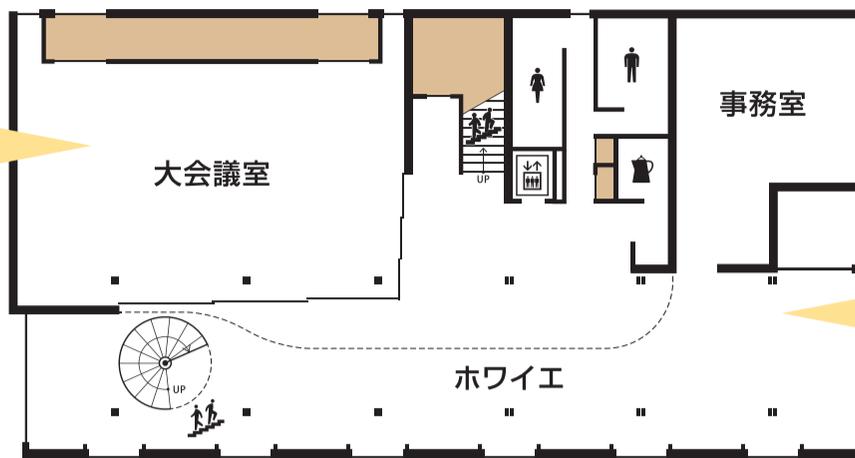
大会議室



会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエとの間は大きな引戸になっており、解放してより大きな空間として利用することができます。

[収容人数：54名]

1階フロア図面



ホワイエ



入口から入ってすぐのホワイエには、創立100周年記念事業基金寄附者銘板の他、北海道大学医学部の歴史が掲示してあり、ベンチに座って外の景観を望むこともできます。基金にご寄附いただくと、北海道大学医学部の歴史の一部としてご自身のお名前を刻むことができます。

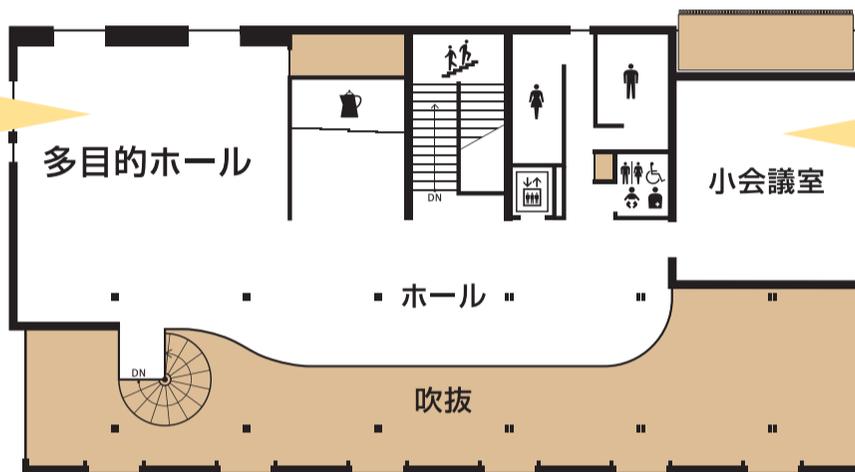
多目的ホール



会議よりもカジュアルでオープンな空間として、セミナーや音楽会、上映会などに利用することができます。椅子48脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。

[収容人数：48名]

2階フロア図面



小会議室



小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行えます。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気が集まることのできる空間になっています。

[収容人数：18名]

ホール



建物の開放感を感じることでできるよう、前方は吹抜になっているため、建物の全容を一望することができます。同窓会寄贈の北海道大学医系建物100年の変遷を再現した模型を設置しています。

- …男子トイレ
- …女子トイレ
- …パントリー
- …だれでもトイレ
- …階段
- …エレベーター
- (オストメイト、ベビーベット)

館内はバリアフリー仕様になっています。車椅子の方もエレベーターで2階に上がることができ、お手洗いにはオストメイト、ベビーベッド等を完備しています。



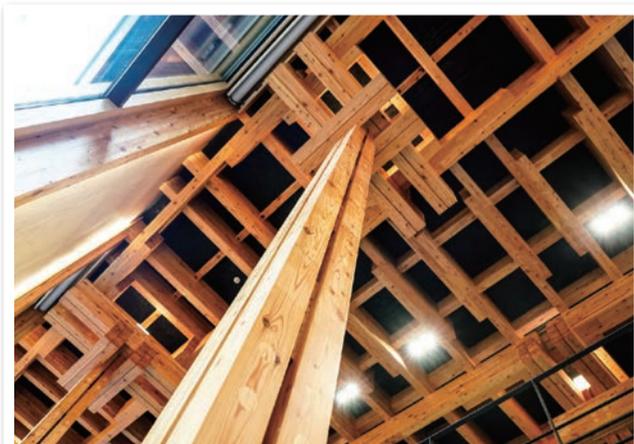
1階ホワイエの壁に輝く寄附者銘板



2階ホールには、北海道大学医系建物100年の変遷を模型にして再現しました



1階ホワイエと2階ホールを繋ぐ螺旋階段



寺社建築に用いられる伝統的構法“斗棋”を感じる天井



北海道大学医学部創立100周年記念式典・記念講演会・祝賀会開催報告

去る2019年10月12日(土)、京王プラザホテル札幌において、医学部創立100周年記念式典・記念講演会・祝賀会を挙行され、医学部同窓生、関係教職員等約200名が出席の中、医学部創立100周年が祝われました。

記念式典は、北海道大学交響楽団による華やかなファンファーレの歓迎演奏で始まり、吉岡充弘医学部長(60期)の式辞に続き、笠原正典総長職務代理(56期)並びに浅香正博医学部同窓会長・北海道大学医学部創立100周年記念事業後援会長(48期)の挨拶の後、丸山浩文部科学省高等教育局医学教育課長、鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長及び長瀬清北海道医師会会長(40期)から祝辞が述べられました。

引き続き行われた記念講演会では、医学部第58期同窓生(現余市協会病院地域医療国際支援センター)である武井弥生氏から「次世代へのバトン〜アフリカ・アジア開発途上国での医療支援を経験して」と題し、これまでの自身が体験してきた、エチオピア、東ティモール、タンザニアでの医療支援活動について講演が行われ、引き続き、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)特任教授の川口淳一郎氏から「やれる理由こそが着想を生む。〜はやぶさ式思考法〜」と題し、小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトにまつわるエピソードと共に、制約に縛られずに自ら挑戦することの重要性について講演が行われました。

記念講演会終了後、同ホテル内で会場を移して行われた祝賀会では、北海道大学交響楽団による「楽劇ニルンベルクのマイスタージンガーより第一幕への前奏曲」の演奏を皮切りに、吉岡医学部長、浅香正博同窓会長から主催者挨拶、塚本泰司札幌医科大学学長から祝辞が述べられ、笠原総長職務代理、鈴木 名誉教授、吉岡医学部長、秋田弘俊北海道大学病院長(57期)、浅香医学部創立100周年記念事業後援会長、齋藤和雄(38期)、長瀬 清(40期)、吉木 敬(41期)医学部創立100周年記念事業後援会副会長による鏡開きが行われました。その後、鈴木名誉教授による祝杯により始まった祝宴では、和やかな雰囲気の中、田中伸哉北海道大

学医学部創立100周年記念誌刊行委員会委員長(66期)から「医学部の紹介」があり、その中で岡田 晃先生(30期)、阿部 弘先生(37期)及び谷口直之先生(43期)よりそれぞれ学生時代の思い出を披露いただきました。会の結びには、田邊達三名誉教授(30期)から「大志BBAに培われて開基100周年」と題して、医学部及び北海道大学病院のこれまでの100年を振り返る講演が行われ、秋田北海道大学病院長の乾杯に引き続き、最後に、北海道大学寮歌「都ぞ弥生」を出席者全員で斉唱し、盛況のうちに終了しました。

医学部はこの記念事業を新たな幕開けとし、次の100年に向け、新たな心持ちで医学研究・教育に邁進していきます。

式典・講演会・祝賀会 次第

日時：2019年10月12日(土) 午後2時～
会場：京王プラザホテル札幌

—— 記 念 式 典 ——

- 一、開式の辞
- 一、式辞 北海道大学医学部長 吉岡 充 弘
- 一、挨拶 北海道大学総長職務代理 笠原 正 典
北海道大学医学部同窓会長 浅香 正 博
- 一、祝電披露
- 一、祝辞
文部科学省高等教育局学教育課長 丸山 浩
北海道知事 鈴木 直道
札幌市長 秋元 克広
北海道医師会会長 長瀬 清
- 一、閉式の辞

—— 記 念 講 演 会 ——

演題『次世代へのバトン〜アフリカ・アジア開発途上国での医療支援を経験して…〜』

産婦人科医 北海道大学医学部第58期
元上智大学 総合人間科学部看護学科 准教授
現余市協会病院 地域医療国際支援センター
武井 弥生

演題『やれる理由こそが着想を生む。〜はやぶさ式思考法』

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)
宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系 特任教授
川口 淳一郎

—— 記 念 祝 賀 会 ——

- 一、開会のことば
- 一、奏楽
- 一、挨拶 北海道大学医学部長 吉岡 充 弘
北海道大学医学部同窓会長 浅香 正 博
- 一、祝辞 札幌医科大学学長 塚本 泰 治
- 一、鏡開き
- 一、祝杯
- 一、医学部の紹介「医学部創立100周年記念事業」
北海道大学医学部創立100周年事業実行委員 田中 伸 哉
- 一、講演「大志BBAに培われて開基100周年」
北海道大学名誉教授 田邊 達 三
- 一、乾杯 北海道大学病院長 秋田 弘 俊
- 一、都ぞ弥生
- 一、閉会のことば



吉岡充弘 医学部長(60期)



浅香正博 医学部同窓会長(48期)



笠原正典 総長職務代理(56期)



長瀬清 北海道医師会会長(40期)



田邊達三 名誉教授(30期)



秋田弘俊 病院長(57期)



参加者による記念撮影

北海道大学医学部創立100周年記念講演会要旨

『次世代へのバトン ～アフリカ・アジア開発途上国での医療支援を経験して…～』

産婦人科医(元上智大学総合人間科学部看護学科 准教授) 現余市協会病院 地域医療国際支援センター 武井 弥生(58期)

母校の創立100周年という貴重な機会に、私のような浅学の者が、医学の研究や地域の医療に深く日々さざげられている先輩のかたがたを前にお話させていただけるのは大変な、身に余る名誉であり、心から感謝すると同時に身が縮む思いです。

医学部長の吉岡教授、大学院医学研究院副院長の篠原教授らに目を止めていただいたとすれば、30代から背中を押されるように、危険や将来も考えず、向こう見ずに海外で働いてきて、一応今も元気であるからなのではないかと思えます。これまでの経験を、時系列で4つにわけてお話しし、次でなくても、今の世代の方にも少し「バトン」にさわっていただければいいなと思えます。



写真1 講演される武井弥生先生(58期)

アフリカ以前

私は、旭川生まれの道産子です。物心がついた昭和30年代、冬に雪で交通が遮断され、陸の孤島となった村で虫垂炎の患者さんが治療を受けられずに亡くなったという記事を読み、将来は僻地の医師になろうと思いました。またその頃、小学校の図書館にあった偉人の伝記で、シュバイツァー博士というアルザス出身の神学者でオルガニストが、アフリカの医療の現状を知り30才から医学を志し、90才で亡くなるまで医療活動を行ったこと、アフリカという大陸があり、そこにはまだ医療を受けられない人が沢山いることを知りました。日本では何とかして病院にかかれる時代に、そうでない所が地球上にあるなら、そこに行こうと思いました。

憧れの北大の学生時代は、受験勉強の反動で体育会の剣道部に入り、稽古に明け暮れました。大学最終学年の春休みフラテ会で上京し病院を見学し、将来南の国に行くには北大か、東京国際医療センターかと考え、当時女子医大から戻られ事情をよくご存知の第三内科の宮崎保先生に相談にいきました。宮崎先生が「海外で働いている人、その人たちの帰国報告会・講演会など東京の方が北海道よりずっと多いでしょう、またまず内科的な考え方を身につけなさい」と言ってくださり、話を終え教授室のドアを閉めた時は、女子医大に行くことに決めていました。

東京で出会った海外経験者たちから、日本で一番途上国に近い場所があるとすすめられたのが山谷という荒川区台東区にまたがった地区でした。かつて日本の高度成長を担った、日雇い労働者の宿屋街です。地域のおじさんたちはその日の稼ぎがないと公園で寝泊まりし、町はお小水の香りが漂い、今でもそうですが結核罹患率が他の地区より高い地域でした。ほとんどの住民が健康保険証を持っていないため、寄付で賄われている無料クリニックがあり、そこには肝硬変や、冬の寒さをしのぐためお酒を飲んで焚火にあたり、寝込んでしまって背中に大やけどを負った患者さんらが来ていました。私はそこで掃除のボランティアをしました。そんなおじさんの中に、お金が入った時にお礼と共に缶コーヒーをくれた患者さんがいました。貧しい人の精いっぱい感謝を嬉しく思いました。そしてそれは後に途上国でも出会う事になりました。

将来働く選択肢としてJICAの青年協力隊もありましたが、まずは熱帯医学を勉強しようと、留学資金がたまった時点で女子医大をやめ、生まれて初めての海外、英国に向かいました。

はじめスコットランドのエジンバラで英語を学びましたが、そこでエジプトで住血吸虫という膀胱の寄生虫の調査をしていた大学教授や、両親の仕事の関係でアフリカで生まれ育った金髪碧眼の医学生らと出会い、急にアフリカが身近になり、更に皆これからアフリカに向かう私を驚くほど励ましてくれました。リバプールの熱帯医学校に入学したのですが、強いなまりの英語を話す人々は教官も含め親切で、初めて聞く沢山の寄生虫と格闘し国試準備以上に勉強しました。無事卒業しエチオピアに渡航する一ヶ月前に移民局に一月のビザ延長に行ったところ、戻ってきたパスポートには3ヶ月もの滞在許可が降りていました。東洋からアフリカへ行くために来た留学生を、英国の人々が親切に元気づけてくれたことに感謝しています。

エチオピア

初めてのアフリカはエチオピア連邦民主共和国でした。医師不足で困っていたエチオピア南部の村のミッション病院で働く知人の日本人看護師から、現地に来るようにと依頼の手紙がリバプールに届きました。当時、まだ独立前のエチオピアに統合されていたエリトリアを含む北部と、エチオピア軍との内戦の真っ最中でした。南部のその病院に安全かどうかを確認する手紙を出したところ、一ヶ月かかって返ってきた院長からの返信には、「内戦の舞台は北部であり、南部はとても平和」とありました。念願のアフリカに初めて

行ける喜びで高揚していた私は安心してロンドンを旅立ちました。



写真2 エチオピアの結核病棟にて小児患者の診察

病院に着任した2ヶ月後の5月のある日突然、首都から50kmのところまで反政府勢力が侵攻したとニュースが入りました。国内に残っていた市民は看護師と私の二人だけ、日本大使館から、3日後に出る最後の民間機を予約してあるので来るようにと電話がありました。しかし翌朝、すでに、アジスアベバは包囲されたため、村にとどまるのみでした。エチオピア国軍の兵士が各地の兵営を逃げ出しエチオピア全土が無法状態となり、無人となった兵営に村人たちが侵入し兵器や弾薬を盗んで道端で売り、それらを手に商店や学校教会の略奪を始めたのです。そして、明日私たちの病院が狙われるという噂が広まり、同僚のエリトリア人女医と全ての金目の物を差し出す覚悟を決めました。でもたった一つずつ、彼女は水銀血圧計、私は中古のアコーディオンを屋根裏に隠しましたが、病院側は村の長老たちと会議を開き対応策を練った結果、村の男たちが交替で寝ずの番をして病院を守る事になりました。その夜、パンパンという威嚇射撃の音を聞きましたが、目覚めた時は朝日が窓から差し込み、無事だったと知りました。

その後危険なことはありませんでしたが、抗てんかん薬やインスリンの在庫が底をつき、薬をもらいに来たてんかんの患者さんが泣きながら空手で遠い道のりを帰ってゆくを見つめるだけでした。

患者さんは殆どが感染症で、リバプールで学んだ、マラリア、腸チフス、結核、発疹チフス、腸管寄生虫、栄養失調、多剤耐性の淋菌などでした。外来で一番多かったのは活動性肺結核で、咳のひどさと肋骨の浮き出た胸の聴診から、その患者さんの喀痰のチールニールセン染色のガフキー号数が見当つくようになるほど多かったです。聴診している私の鼻先めがけて咳こむおじさんに、「口を手で覆うように」というと素直に覆うのですが指は閉じずに開いたまま。そういう教育を受けてないのですから仕方ありません。最終的に私も結核性胸膜炎になってしまいました。

ある時8才の女の子が破傷風で運ばれてきました。新生児の破傷風は自宅分娩で臍帯を不潔な包丁やかみそりなどで切断され、一週間後に全身症状が発

症し病院に連れてこられます。入院後は光の当たらない暗箱の中に寝かせ、ワクチン、抗生剤ペニシリンの治療をしても全員助けられませんでした。その8才の子も顔は咬筋の収縮で薄笑い様、かつ全身の強直けいれんで運ばれてきたのですが、感染の傷口が足の指と末梢だったこと、年長だったことなどより、同じ治療でも助けることができました。

退院して数日後にこのスライドのおじいさんが孫娘を連れてお礼にやってきました。白いマントに隠し持っていたのは瓶詰の牛乳。牛乳は貴重品で、後で煮沸してから飲もうと手を伸ばしたら、今ここで飲みなさいというのです。困って、今お腹の調子がよくないから後で、と嘘をついたところ、嬉しそうに、これはタギッチョ、薬だから、それこそ今飲みなさいと。あまりに強いるので、逆らえずその場でえいと飲みました。見届けたおじいさんは帰宅。私も下痢も何もありませんでした。同僚に言うと、おじいさんは体の弱い外国人のために、飼っている中で一番健康な牛を選び、瓶を洗ってつめ、持ってきてくれたのではとのこと。限られた物で精一杯の感謝の気持ちに触れました。

半年ほどすると外来の診察はかたことのシガモ語を交えるようになりました。英語は万能でないことを知り、この後、東チモール、タンザニアでもなるべく現地の言葉を使うようになりました。また現地で初めて知ったことは、盗みが日常茶飯事となっていること。その後、東チモールでも難民キャンプでもそうでした。鍵のかけ忘れ等、全て自分に非がありました。周りは皆貧しく、外国人は持てる人なのです。

現地のお産は殆どが自宅分娩で、問題が起こった時だけ病院に来ます。逆子でお尻から出てきた赤ちゃんの、頭だけが子宮内に残っている状態、子宮内に胎児がまだいるのに臍帯が先に飛び出て拍動がなくなっている状態、横位で赤ちゃんの体が子宮の中で縦ではなく横になって出られず腕だけが飛び出し、紫色になっている状態などです。帝王切開ができれば助けられたと思います。マラリヤなどの風土病化している疾患は医師看護師でなくてもトレーニングを受けた現地のヘルスアシスタントでも治療できますが、手術は付け焼刃ではできません。帰国したら産婦人科医学を学ぼうと思うようになりました。

産婦人科

帰国し篠舞の国立療養所に入院しました。退院後宮崎先生から産婦人科の藤本教授を紹介していただき、変則的な入局を受け入れて頂きました。最初は帝王切開ができるようになったら海外へと思っていたのですが、帝王切開

も一筋縄でないこと、異所性妊娠（子宮外妊娠）や卵巣腫瘍などにも対応できるようにしたいと思うようになりました。

1999年、それまで東チモールを不法に占拠していたインドネシアから、国民投票で独立を勝ち取り東チモール民主共和国となったのですが、その国民投票直後、撤退するインドネシア軍と親インドネシア派の民兵による残虐な襲撃があり、深刻な被害が報道されました。現地視察に行った日本カトリック医師会の医師団から、短期間でもよいボランティア医師が募られました。当時帯広厚生病院に勤めており、ダメもとで行かせてもらえないか尋ねたところ、川口院長をはじめ、津村医局長、同僚の山田、越田、斎藤の各先生が快諾してくれ、一か月の休職を認め、私の担当していた妊婦も含めて外来を皆で分担してくれました。

入国した東チモールの村々は騒乱後5ヶ月たっても焼けた家屋が放置され、焦げた臭いが漂っており、手付かずの美しい海や山とのコントラストが印象的でした。東チモールの東部フィロロという町で放火を免れた学校の教室を利用しクリニックを開きました。5時間も6時間もかけてチモール島の東のはずれから徒歩で、マラリアなど高熱の患者さんがやってきては、薬を受け取り一回分をクリニックで飲み、そして解熱しないまま徒歩で帰るのです。現地は、とても産婦人科医をする状況ではありませんでした。ユニセフの担当者が首都ディリからクリニックを視察に来た際、私が産婦人科医と知ると、「山間部ではたくさんの妊婦さんが死んでいる、あなたは必要とされている」と言われ、産婦人科医としてまた戻ってくる決心をしました。その翌年、東チモールに行くために、お世話になった帯広厚生病院を辞めました。

医師不足の国連東チモール暫定政府が各国外務省に流した医師募集を外務省の友人が転送してくれ、それに応募して採用されました。エチオピアの内戦で心配した両親は初めて空港まで見送りにきてくれました。今は亡き二人に心から感謝します。

当時東チモール40万人の国民に産婦人科医が私ともう一人だけという時期もあり、殆ど毎日、運ばれてきた妊婦さんの帝王切開をしていました。現地の助産師は大変優秀で、夜間も骨盤位も含め殆どの分娩をこなし、当直で呼ばれたときの選択肢はほとんどが帝王切開という状態でした。現地のスタッフは、新しい技術や知識はないかもしれませんが、医師不足などの限られた環境で技術を磨いてきており、敬意を払いました。後程大学の国際看護の講義でも助産師の重要性を強調しました。

一年の東チモール勤務後、赤十字の知人から依頼されタンザニア連合共和国にあるコンゴ人の難民キャンプで保健要員として働くことになりました。

タンザニアは他のアフリカの国々と比べると政治的に安定しており、国境

を接している8つの国のどれかに紛争があると難民を受け入れ、時にはタンザニアへの帰化も許していました。コンゴ人難民たちは、タンザニアの間に横たわる世界第二の深さのタンガニーカ湖を、命辛々商業ボートに20ドルもの大金を払って対岸に渡ってきます。そこには国連難民高等弁務官UNHCRのバスが待っており、100km穴ぼこの道をサバンナ原野までで辿り着くと、最低限の調理道具と世界食糧機構WFPの用意した一人一日当たり1800キロカロリーの油、塩、とうもろこしの粉などをあてがわれ、家づくりに取り掛かります。日干し煉瓦の家々は狭く密集しており、7年以上もキャンプ生活を続けている難民の一人がふるさとを懐かしんで、「コンゴでは広い敷地の家にすんでいたんだ」と言っていました。これと同じ言葉を7年後日本で聞くことになりました。東日本大震災で家が津波で襲われ避難所に住んでいた難民が、元居た家は広がったんですと。日本で他の国の反乱分子同士が侵入し、お互いが戦って日本国民が住み慣れた家を放棄して逃げまどうということは無いでしょうが、自然災害によってコンゴ人難民と同じような状況があり得ることを知った瞬間でした。

ある週末、難民キャンプの友人宅にむかっていたら、突然コンニチワという日本語が聞こえました。それは、NHKのSWヒリ語の国際放送での日本語教室で勉強するグループの一人でした。グループは早朝その放送を聞くため小学校に集まり質の良くない電池式のポータブルラジオから流れる日本語に耳を澄ましていたのです。番組の教科書が欲しいというので、100キロ離れたキゴマという一番近い町に行く際に、インターネットカフェに行きNHKにメールで難民たちの勉強に使うので教科書を送ってほしい旨伝えました。すると二週間もしないうちに航空便で100冊の教科書が届いたのです。それを使い、日曜に日本語学校が開かれ、私は即席講師になりました。

なぜ日本語など勉強するか聞いたところ、将来コンゴに帰還できた時、日本企業に就職できるようであれば役立つと思って、と。先が見えず、教育の機会もないところで、小さなチャンスをとらえて希望に結び付ける努力を、日本の若者に伝えました。

教職期間

8年前、大学の教職を引き受けた理由は、これまでの海外の経験を国際看護の講義に生かせるかもしれない、産婦人科医として大学生が知るべき命の大切さを伝えられるかもしれない、との思いがありましたが、最大の理由は、行きたいときに行きたいところに行ける長い休暇が魅力的だったためです。そんな不純な理由で引き受けたため、講義の準備は大変苦労しました。

ウガンダ共和国北部に流行していた「うなづき症候群」と出会ったのは、そこが世界でも有数のHIV感染国であり、そのHIV罹患率が1990年代、まだ抗



写真3 ウガンダのグル県ラクウェア村にうなづき症候群患者の親たち

ウイルス薬がない時、ABCという国家的キャンペーンだけで大きく改善し世界の脚光を浴びたのですが、その後の状況を調べていた時です。ウガンダ政府の目下の懸念事項は、今ではHIVよりうなづき症候群である、とあったのです。その直後、京都大学の、ウガンダをベースにしている文化人類学者の最初の「うなづき症候群」報告会を知り急遽参加しました。そのままネットワーク立ち上げの一員となり、その年の夏休み早速患者家族に会いに渡航しました。写真で私の両腕は両脇の患者の家族からしっかりと握られています。左のかたは当時村長で、「我々の希望は、病気の原因を知ること、治ること。でも支援が無理となったとしても、どうか我々を忘れず、尋ねてきてほしい」と挨拶しました。関心を持ち続けてくれという静かな叫びでした。

このアチョリ民族は過去20年もの間、反政府ゲリラと政府軍との紛争の最中、戦火を避けさせるため狭い集中キャンプに強制的に押し込まれていました。数年前に抗争が終わりキャンプからやっと自分たちの村に戻り、荒れ果てた畑を耕し始めたころ、これから手伝いを始める元気だった子供たちが次々に奇病を発症したのです。

私たちは当初文化人類学者と医学者との学際的協力で、なんとかこの疾患の初歩的な糸口を掴めるのではと考えていました。しかし、ウガンダ政府の主導のもと2013年国立大学医学部、アメリカ政府及びWHOによって大規模な医学調査が行われ、数年前から国立大学らによって河川盲目症との関連が示唆されるようになってきました。河川盲目症とは川に生息するブヨを媒介し、刺された人の皮下で寄生虫が増殖し最終的に眼球に入り込んで失明する熱帯地方の病気です。そのような中で小グループの私たちは、病気そのものよりも、てんかん患者とその家族への社会調査をベースに、限られた資源を用い、どのように効果的なケアが望まれるか、実現可能ななどへ移行していくことになりました。

これまでの調査に基づき、すでにいくつか支援を行っています。男手のない女性世帯やお母さんおばあさんが大黒柱の患者家族を支えるため、皆で相互の畑を順番に共同耕作するのに効率の良い耕作用の牛の支援、栄養改善のための乳牛の支援、またそれまで薬は徒歩で6キロ離れたヘルスセンターに抗てんかん薬を取りに行っていました

が、患者と付き添いの二人分の乗り合いバスの交通費を支給、茅葺きの家はちょっとした失火から全焼してしまうので、屋根を葺く鉄板などを支給しています。交通費のおかげで安定して薬が手に入るようになりてんかん発作頻度が減った患者もいます。

ただ私は医師として関わった以上、少しでも医療的アプローチができればと思っています。うなづき症候群の診断は、特徴的な初発症状、食事の際や冷気によって突然首の筋肉が脱力する発作を、家人が見てヘルスセンターで申告して登録され、抗てんかん薬が開始されます。薬はバルプロ酸とカルバマゼピンの二種類のみです。薬が効かない難治性のてんかん患者はこの6年間で何人も亡くなりました。少しは助けになるかと思い、数年前から、大学の合間に仙台のペーテル病院でてんかんの勉強を始めました。やっと電極を間違えなく頭につけられるようになり、今年の8月に渡航した際、うなづき症候群の研究・診療の第一人者であるイドロ先生に、いつか私を使ってくださいとお願いしたところ、電極より産婦人科医としてはたらいしてほしいなあ、と言われてしまいました。

アジア・アフリカの人たちから学んだことを講義で伝える他に、教官として、気を付けたことが二つありました。

一つは教室の中よりも教室の外へ。もう一つは教師としての自分の言行一致です。

上智大学の名誉教授で元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんは徹底した現地主義で、私も見習いなるべく見学をシラバスに取り入れました。お話しした山谷の他に、国際感染症の講義でハンセン病を取り上げ、もう生きている元患者さんが少なくなった静岡県御殿場市の神山復生病院を私立のハンセン病施設として、公立の施設として東京都東村山市の多磨全生園に引率し、隔離された患者さんの人生を学んでもらいました。目黒区にある日本で唯一の寄生虫館、お茶の水の順天堂大学の酒井シヅ先生の日本医学教育歴史館も見学しレポートを提出してもらいました。今平和な日本にもあった戦争下での生活を知るために、新宿の平和祈念展示資料館や九段下の戦傷病者のしょうけい館を見学してもらいました。

言行一致は、限られた世界の共通資源を大切にするため、教室の温度は推奨どおり夏は28度、冬は22度を守らせ

る様にしました。研究室では一人の時
はエアコンをつけず、冬はできるだけ
着込み、夏は窓とドアを開放し風を通
しました。フィリピンでの看護実習に
際しては、貧しい現地でお世話になる
宿舎でも水や電気、トイレトペーパー
を使い過ぎないように自ら示し、日本か

ら持ち込んだプラスチック包装は勿論、
現地の買い物でついてきたプラスチック
も全て日本に持ち帰る姿を見せました。
こういった姿勢が学生には、うるさ
いと思われていたと思いますが、4年生
で国際看護コースをとった学生から卒
業後助産コースに進む学生が散見され

るようになってきました。今の4年生のう
ち2人が、上智大学卒業生では初めて
札幌の某大学の助産コースに入学する
と思います。
今年の3月に退職し、実家の北広島市
に戻り、のどかさ、静かさ、安全にひ
たり、今現在も争いの中を逃げまどっ

ている人々がいることが夢かと思いま
す。私のバトンを手にする人は少ない
と思いますが、受け取ってくれば、
それがまた次の走者に受け継がれるこ
とを期待してお話を終えたいと思いま
す。ご清聴本当にありがとうございました。

北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力をお願い

同窓生の皆さまのお力添えにより、
本年10月に創立100周年記念事業として
記念館の落成式及び記念式典を無事に
執り行うことができ、本事業は一区切
りを迎えました。事業の募金期間は
2021(令和3)年3月まで続きます。
記念事業のもう一つの柱である「北海
道大学医学部教育研究基金」の創設の
ため、より一層のご支援を賜りますよ
う、記念事業実行委員会一同、重ねて
お願い申し上げます。

募金趣意書につきましては、以下の
方法で取得いただけます。

①ウェブサイトからのダウンロード
北海道大学医学部創立100周年記念事

業ウェブサイトからダウンロードい
ただけます

②メールまたはお電話によるご請求
医学系事務部総務課庶務担当
(E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp
電話: 011-706-5085)
までご連絡ください。趣意書を郵送
にてお送りいたします。

また、クレジットカード決済による
ご寄附のお申し込みについては、北大
フロンティア基金ホームページ「寄附
申し込みフォーム」からお手続きいた
だけます。

北海道大学医学部創立100周年記念事業
実行委員会
募金活動小委員会委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
TEL/FAX: 011-706-5085/011-717-5286
E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

北海道大学医学部百年記念館に掲示する銘板の種別

種別	寄附総額		銘板
	個人	法人・団体	
フラテダイヤモンド功労賞	1,000万円以上	3,000万円以上	ゴールド(大サイズ)(縦150mm×横150mm)
フラテゴールド功労賞	500万円以上	1,000万円以上	ゴールド(縦70mm×横120mm)
フラテシルバー功労賞	100万円以上	500万円以上	シルバー(縦50mm×横100mm)
フラテブロンズ功労賞	20万円以上	100万円以上	ブロンズ(縦25mm×横100mm)

寄附金納入状況

2019年11月30日現在

寄附金合計

485,184,030円

○教員	221件	46,340,000円
○医学部卒業生	630件	219,481,935円
○病院・企業等	145件	158,520,000円
○その他(講座・同門会等)	4件	20,103,636円
○その他(同期会)	6件	16,098,459円
○その他(個人・団体)	96件	24,640,000円

同窓会卒業期別寄附状況

2019年11月30日現在

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
18期	1	0	0%	0	0
19期	1	1	100%	0	100,000
20期	2	0	0%	0	0
21期	2	0	0%	0	0
22期	4	0	0%	0	0
23期	7	1	14%	0	200,000
24期	5	1	20%	0	1,000,000
25期	15	2	13%	1	658,430
26期	6	0	0%	0	0
27期	10	3	30%	0	620,000
28期	19	9	47%	0	2,950,000
29期	21	6	29%	0	1,510,000
30期	36	10	28%	0	2,450,000
31期	21	3	14%	1	945,029
32期	27	5	19%	0	325,000
33期	35	7	20%	0	3,500,000
34期	45	7	16%	0	2,150,000
35期	50	26	52%	0	18,700,000
36期	48	8	17%	0	2,750,000
37期	56	31	55%	0	6,910,000
38期	54	10	19%	0	2,120,000
39期	54	18	33%	0	7,000,000
40期	53	18	34%	0	6,252,000
41期	65	25	38%	1	16,450,000
42期	65	48	74%	1	5,365,000
43期	53	18	34%	0	9,439,583
44期	79	74	94%	1	12,850,000
45期	62	14	23%	0	3,780,000
46期	79	53	67%	22	14,860,000
47期	78	11	14%	0	7,700,000
48期	73	16	22%	0	19,213,636
49期	92	8	9%	0	11,070,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
50期	89	12	13%	0	6,170,000
51期	101	10	10%	0	3,900,000
52期	86	8	9%	0	4,300,000
53期	80	9	11%	0	1,950,000
54期	102	11	11%	0	7,710,000
55期	108	23	21%	0	11,070,000
56期	104	16	15%	0	3,860,000
57期	124	23	19%	0	5,500,000
58期	96	14	15%	0	3,900,000
59期	122	10	8%	0	2,370,000
60期	116	32	28%	0	9,440,000
61期	100	16	16%	0	3,395,000
62期	115	8	7%	0	970,000
63期	102	9	9%	0	2,320,000
64期	114	34	30%	0	4,639,352
65期	115	12	10%	0	3,720,000
66期	114	16	14%	0	3,450,000
67期	106	28	26%	0	3,520,000
68期	101	9	9%	0	20,840,000
69期	107	10	9%	0	1,940,000
70期	94	8	9%	0	1,160,000
71期	89	7	8%	0	2,110,000
72期	80	10	13%	0	1,222,000
73期	82	12	15%	0	1,355,000
74期	82	11	13%	0	1,020,000
75期	81	10	12%	0	1,370,000
76期	74	7	9%	0	720,000
77期	67	2	3%	0	250,000
78期	74	11	15%	0	1,400,000
79期	83	8	10%	0	760,000
80期	85	5	6%	0	750,000
81期	63	7	11%	0	1,100,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
82期	64	3	5%	0	500,000
83期	67	7	10%	0	534,000
84期	67	8	12%	0	560,000
85期	65	1	2%	0	50,000
86期	64	1	2%	0	20,000
87期	58	0	0%	0	0
88期	58	1	2%	0	50,000
89期	78	2	3%	0	250,000
90期	66	0	0%	0	0
91期	94	0	0%	0	0
92期	82	2	2%	0	110,000
93期	79	1	1%	0	20,000
94期	86	1	1%	0	10,000
会員(2)	168	29	17%	0	12,640,000
専1	0	0	0%	0	0
専2	2	0	0%	0	0
専3	3	0	0%	0	0
専4	1	1	100%	0	120,000
専5	12	3	25%	0	1,120,000
専6旧	21	2	10%	0	300,000
専6新	4	0	0%	0	0
専7旧	25	1	4%	0	100,000
専7新	15	1	7%	0	1,000,000
樺太	1	0	0%	0	0
計	5,454	905	16.6%	27	296,434,030

(参考)

医学部創立90周年における同窓会からの寄附状況(2010年3月末)

全体数	寄附者数	寄附率
6,272	1,656	26.4%

※2019年11月30日現在まとめ ※全体数(住所判明者): 故人は除く/海外在住者除く(平成30年度同窓会データより) ※法人(代表者が同窓生)は除く

教授就任のご挨拶



放射線科学分野
画像診断学教室
工藤 興亮
(71期)

このたび、令和元年8月1日付で北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野画像診断学教室の教授を拝命いたしました。ここに謹んで新任のご挨拶を申し上げます。放射線科学分野は昭和24年に放射線医学講座として若林勝教授が初代教授に就任し、入江五朗教授、宮坂和男教授、白土博樹教授に引き継がれ、放射線診断や放射線治療において先進的な業績を残されてきました。

昭和58年には核医学講座が独立して古館正徳教授が初代教授に就任、玉木長良教授に引き継がれ、PET装置やPET製剤開発などで多大な功績を残されています。本年度からはそれぞれ放射線治療学教室と画像診断学教室という形で新たなスタートを切ることになりましたが、放射線診断、IVR、核医学を担当する画像診断学教室の教授を拝命しましたことは大変光栄であると同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は平成7年に北海道大学医学部を卒業後、放射線医学教室に入局して研修を開始し、宮坂和男教授のご指導の下、ダイナミックCTを用いた脳血流量解

析に関する研究で平成15年に学位を取得しました。平成18年には米国留学する機会を頂きましてMRIの基礎から最先端の画像処理研究を学ぶことができ、帰国後は岩手医科大学で超高磁場7T-MRIの研究を行う機会も頂きました。平成25年より本学に戻りまして現在に至ります。

専門は神経放射線診断であり、これまでは主にCTやMRIの撮像法・解析法の研究を行ってまいりましたが、今後は画像診断学全体の研究を推進し、北大で世界初となるようなオリジナリティの高い研究を目指します。画像診断は様々な診断機器で全身を網羅するものであり、診療においてはそれぞれ

の領域で高い専門性が必要とされますので、教室運営においては人材育成も重要と考えております。北大と関連病院の先生方との密接な連携のもと、医学部教育から専門医教育まで一貫した教育体制を整備し、広い北海道の地域医療を支えながらも最先端の画像診断研究を推進できるような体制を整え、北大のフロンティア精神を基に放射線科学分野および画像診断学教室を発展させていきたいと考えております。同窓会の先生方におかれましては今後益々のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



放射線科学分野
放射線治療学教室
青山 英史
(70期)

令和元年12月1日付で放射線治療学教室教授を拝命いたしました。どうぞよろしくお願ひします。私は平成6年に北海道大学を卒業し、卒後すぐに放射線医学教室（宮坂和男教授）に入局しました。市立札幌病院・北海道大学病院で研修後、白土博樹教授（当時講師・准教授）の元で放射線腫瘍学を勉強し、准教授まで務めさせていただきました。平成22年4月に新潟大学医学部放射線医

学教室教授を拝命、その後10年間は同大学にお世話になりました。この原稿の締め切り日はちょうど新潟大学の離任日と重なっています。今、間近に迫った雪の北海道に思いを馳せながら筆を進めています。

私が北海道大学で行いたいこと、それは「人を集め、育てる」ということです。そのためには放射線医学・放射線治療学に興味を持つ人のすそ野を広げる必要があります。放射線治療は言うまでもなく癌の三大治療法の一つですが、医学生はもとより医師からも十分に認知されているとは言えません。なぜでしょうか。医学部に入学して最初に勉強する分野に「解剖学」があり

ます。数か月に渡る授業、大量暗記の試験、解剖実習という洗礼。これらの強烈なインパクトと相まって、解剖学の教授の名前を忘れる人はいないでしょう。放射線治療学はどうでしょう。残念ながらそのようなインパクトを学生に残せておりません。また医師は生涯教育といいますが、興味がない領域の勉強は意図的に避けることができます。従って学部教育を充実させること、教官が熱意をもってその領域の魅力を伝える努力をすることが、すそ野を広げる唯一の方法と考えます。母校で後進の指導をさせていただけることは教官にとっても幸せなことです。そのことに感謝しながら真摯に取り組んでい

くつもりです。
北海道大学における放射線治療学の未来には大きな可能性が広がっています。時代を先取りする照射技術を開発してきた教室の伝統、高精度放射線治療で世界の標準治療の基盤となるエビデンスを作った実績、広大な北海道における不十分なカバー率＝すなわち発展の余地、そして外見に傷をつけずに癌を根治できるその潜在能力。いずれをとっても診療・研究両面において魅力にあふれています。これから、多くの若者と出会い、共に放射線治療学教室の新たな歴史を作っていくこと、大変楽しみにしています。

秋の褒章、叙勲

瑞宝中綬章



教育研究功勞
牧田 章
(32期)

令和元年秋の瑞宝中綬章の授章に際して
令和元年秋の褒章で文部科学大臣から12月13日に瑞宝中綬章を授与されることになりました。今回の褒章は糖脂質の化学、先天代謝異常、生合成の研

究を通して基礎医学研究に貢献したことに対して与えられるものです。

1957年、伝染病研究所（現、医科学研究所）、長野泰一所長（医学部7期、インターフェロンの開発者）の紹介で山川民夫先生の研究室に入ったところは四つの糖脂質が知られていましたが、現在は糖鎖の化学構造が異なる数十種が知られています。これらのうち新たなもの（フォルスマン抗原など）を含め五つの化学構造を決めました。これらの糖脂質は細胞、臓器、ひいては動

物種ごとに特徴的な分布を示します。糖脂質はABO式、ルイス式、P式の血液型の抗原として働きます。

北海道大学では糖脂質糖鎖の合成酵素（糖転移酵素）四種類を単離し、それらの性状を明らかにしました。これにより酵素遺伝子を同定し、合成された糖脂質の生理機能を探ることが可能になりました。他方、糖脂質糖鎖に硫酸基を結合して糖脂質の合成に働くスルフォトランスフォーラーゼ（ST）の単離、遺伝子同定の研究を行いました。

人工的にSTを欠損させると、ミエリン機能異常や精子形成停止を引き起こします（本家孝一、谷口直之ら）。このように糖脂質は脳神経系や生殖系に重要な機能を果たしていることが明らかになりました。

これらの業績に対して授与される褒章は若い共同研究者共ども、代表して伝達式に臨むものです。ご推薦いただいた関係者の方々に心からお礼申し上げます。

瑞宝中綬章



保健衛生功勞
萩田 征美
(44期)

まずは、お世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。私は北大医学部卒業後、第一外科で修練を受けました。しかし定年直前の勤務病院は第二外科の関連病院である函館病院でした。でも第二外科の後輩たちが、推薦してくれた結果の受勲なのです。深く感謝いた

します。ここに至るまでは、第一外科の方々に筆舌に尽くし難いほど、お世話になりました。深く感謝いたします。失礼ながらお名前は割愛させていただきますが、「君のために忠告する」「君が適任である」「全面的に支援する」などのお言葉をいただきました。多くの手

術に際しては前立ちしてくださり、手ほどきをしていただきました。臨床診断、病理診断なども細かくご指導頂きました。最後の赴任地に向かう時、機構本部から「期待している」といわれました。何も感謝の言葉以外ありません。本当に有り難うございました。

瑞宝小綬章



保健衛生功勞
岸 不盡彌
(45期)

瑞宝小綬章を受章して

この度、はからずも令和元年（2019年）秋の叙勲で綬章の栄を賜りました。この栄誉は北海道社会保険病院（現・独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院）を育て発展させてこられた多くの諸先輩や、同僚職員を代表して私が頂くことになったものと思ひ、誠に光栄に存じます。

顧みますと、昭和26年に結核予防法が改正され、当院は国の施策として結核患者に適正な医療を提供するための施設として、昭和28年に北海道社会保険中央病院として設置されました。病床数は224床で、奥田正治先生が初代院長でした。昭和53年には一般病床304床、結核病床46床となり、その間看護専門

学校の開設、健診センターの設置による予防活動も開始しました。平成7年には五十嵐丈記院長が赴任して、政府管掌健康保険の窮状のなかで病院新築計画をまとめ、平成9年に着工、平成15年に竣工しました。平成13年には「北海道社会保険病院」と名称変更し、また介護老人保健施設「サンビュー中の

島」(100床)を開設しました。

私が病院長になったのは平成13年4月ですが、急性期患者から慢性期患者まで受け入れ、さらに「患者を主体とした、質の高い医療サービスを効率的に提供する」ために、患者および家族の方々の様々な要望を受けていくことは本当に大変な時代でした。平成13年には札幌市こどもデイサービスセンター、地域周産期母子医療センター開設、平成15年臨床研修指定病院取得、平成16年入院包括医療制度DPC導入、医療機能評価機構認定、看護専門学校閉校、平

成20年特定健診・保健指導実施機関、平成22年特例病床8床許可、平成24年開放型病院の施設基準取得、平成25年がん診療連携指定病院、平成25年地域医療支援病院の承認、というようにほぼ毎年新しい取り組みがありました。私は平成26年3月に退職しましたが、4月より病院は通称「JCHO北海道病院」と名称変更し今や地域に親しまれています。

私自身は昭和44年本学を卒業し、第1内科で、研修、臨床、研究、教育をしておりましたが、平成2年に国立療養所札幌南病院に勤務し、平成10年北海道

社会保険中央病院に移り、平成13年から平成26年3月迄病院長を務めました。この時期日本の医療制度改革が激しい時期でしたが、病院機能を高めるため職員とともに様々な努力を続けることにより素晴らしい経験を得ることが出来ましたことを感謝致します。

平成28年4月からは学校法人東日本学園北海道医療大学の専務理事を勤めております。これからの医療は、多職種連携をいかに図り、患者にとってより良い医療を提供できるかにかかっているといます。とりわけ医師の働き方

改革ではタスクシフティングが大きな課題です。医療系総合大学としてお役に立てればと思っております。

なお、厚生労働大臣による叙勲伝達式と天皇陛下の拝謁は12月13日と1か月前の予定になっておりますことを申し添えます。

瑞宝双光章

学校保健功勞

高橋 利道 (36期)

新世紀の医学に向けて (37)

がんゲノム医療の臨床実装と今後の展望

北海道大学病院
がん遺伝子診断部 部長/教授
木下 一郎 (64期)



分子生物学の進歩により、がんに関わる種々の遺伝子異常が同定されてきました。2000年頃からは、肺癌をはじめとして、がんの発生・進展に強く関わるドライバー遺伝子の異常をもつ患者が存在し、その遺伝子産物の活性を抑える分子標的薬が高い治療効果を示す場合があることも分かってきました。新たなドライバー遺伝子の発見が期待される中、次世代シーケンサー(NGS)が登場し、一度に多数の遺伝子の変化を調べる「がん遺伝子パネル検査」が開発されました。2015年に米国政府から個々の患者の違いを考慮する精密医療構想が発表され、NGSを用いたがんドライバー遺伝子の特定と、より効果的ながん治療法の開発を目指した「がんゲノム医療」の推進が謳われました。国内外の様々なプロジェクトの成果によって、肺癌を筆頭に多くのドライバー遺伝子の異常が発見され、対応する分子標的薬の承認が進んでおります。最近ではがん種を超えて治療が有効なドライバー遺伝子変異も発見され、2018年からはがん種を限定しない遺伝子異常に基づく治療薬が承認されるようになりました。

「がんゲノム医療」への期待が高まる

中、当院では2016年4月に「がん遺伝子診断部」が設置され、「がん遺伝子パネル検査」を実施して、個々のがん患者に最適な治療薬に関する情報を提供する体制が取られました。国のレベルでは、がん患者が全国どこにいてもゲノム医療を受けられる体制の構築が掲げられ、質の担保されたNGS検査を実施、解釈し、治療および臨床開発を行う「がんゲノム医療中核拠点病院(以下中核拠点病院)」の設置が提言されました。これを受けて、2018年2月に当院を含む全国11医療機関が中核拠点病院に指定されました。また、中核拠点病院と連携してがんゲノム医療を行う「がんゲノム医療連携病院(以下、連携病院)」の指定も行われ、当院の連携病院として、札幌医科大学付属病院、北海道がんセンター(2019年9月に新たに設置された「がんゲノム医療拠点病院」に指定)、旭川医科大学、市立函館病院が指定を受けました。また、国内の臨床ゲノム情報を集約、管理し、診断や治療開発への利活用を推進するプラットフォームとして、「がんゲノム情報管理センター(C-CAT)」が設置されました。

中核拠点病院に指定されたことに伴い、本院において、「がん遺伝子診断部

を中心として、院内関係各部門(病理部、検査・輸血部、臨床遺伝子診療部、がん相談支援センター、臨床研究開発センター、医療情報企画部、看護部、薬剤部等)や各診療科、本院と連携する連携病院、遺伝子パネル検査会社等が連携して、がんゲノム医療を提供する体制を整備しました。同時に、中核拠点病院に必要な人材育成、診療支援、治験・先進医療主導、研究開発、C-CATへの情報登録等を行うための体制を整備しました。

2019年6月に100以上の遺伝子の検査結果を検討するゲノムプロファイル目的の「がん遺伝子パネル検査」が保険適用となりました。保険診療開始後、当院では毎月約30~40名の患者が本検査を希望し受診されています。本検査によって、遺伝子異常に基づく治療薬が見つかることが期待されますが、現在保険適用となる患者は標準治療が終了となる固形がん患者、および希少がんや原発不明がんなど標準治療のない固形がん患者に限定されているため、候補薬は基本的に未承認か適応外となります。一部の保険適用となる薬剤が見つかる場合を除き、基本的に治験や先進医療への参加が必要になります。

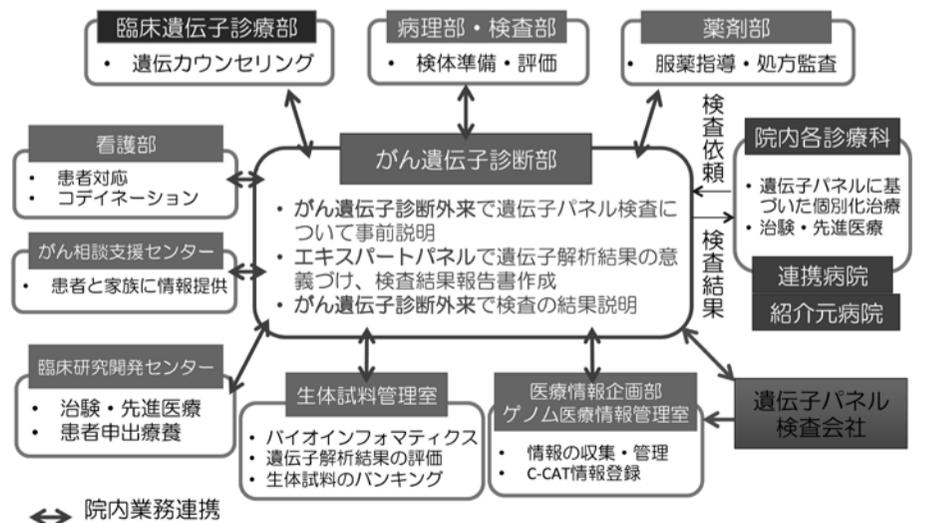
約半数に薬剤の奏効性が期待できる遺伝子異常が見つかりますが、当院を含め、国内で実際に候補薬による治療を受けた患者は約10-15%に留まっています。

診断時等の早い段階での保険適用が望まれるとともに、今後、治験・先進医療や患者申出療養制度を利用した臨床試験を推進し、遺伝子異常に基づく薬剤で治療できる機会を増やしていくことが必要です。治験の推進によって、新たな分子標的薬の承認が進むことが期待されます。また、C-CATに集約したデータを、倫理審査を経た上で、中核拠点病院等、学術研究機関および企業が活用できる体制が整備されつつあり、新規のバイオマーカーや治療法の開発を目指した研究の進展が期待されます。さらに、本年度の経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)に、がんの克服を目指した全ゲノム解析等を活用するがんの創薬・個別化医療が盛り込まれ、中核拠点病院を中心とした研究開発が期待されています。がんゲノム医療の飛躍的な発展を目指し、これらの課題に取り組んでいきたいと思っております。

がんゲノム医療中核拠点病院(11カ所)



北海道大学病院の「がんゲノム医療」体制



エルムの仲間達へ⑨ テレビ出演の功?罪?



札幌禎心会病院
脳疾患研究所

かみやま ひろやす
上山 博康
(49期)

「塞翁が馬」の諺通り、iPS細胞の生みの親である山中先生は、若い頃、外科医を目指していた頃、あまり器用でなかったことから「ジャマ中」と呼ばれ邪魔者扱いされたと言います。一方、多くの手術の名手と言われる先生方は、あたかも手術センス、あるいは手術の才能が備わっているように振る舞います。私は現在も定期的に出演する番組の中で、「脳外科最後の砦」と呼ばれ、他施設では治療できないと言われた患者さんの手術を行い、患者さんが元気になる姿を放映して来ましたが、この始まりは、2006年にNHKのプロフェッショナル仕事の流儀という番組に取り上げてもらったことでした。後日、解ったのですが、当初はアメリカの福島先生がターゲットだったらしいのですが、諸般の事情から急遽、私に変更されたことでした。NHK旭川局の意地もあったのか、大層な力作となり、その後、1年以上、最高視聴率を維持したものとなりました(ちなみに、ディレクターを始め制作スタッフは、東京へ栄転となったとのこと)。放送後は大変な反響を呼び、全国から患者さんが押し寄せて来るようになりました。お陰様で、地方の一介の脳神経外科医である私が、「脳神経外科最後の砦」、「神の手を持つ脳神経外科医」、「匠の手を持つ脳外科医」、等々、大変に名誉な肩書をいただくこととなりました。脳外科医としては、宝くじがあたったような幸運だったと思います。

振り返って考えると、脳外科に入局した時の教授であった都留先生(日本で最初にアメリカの脳神経外科専門医)に真正面から逆らったことから始まりました。私が医者になって最初に受け持った患者さんは9歳の可愛い女の子でした。病名は、第3脳室の奇形腫で水頭症がありました。最初に水頭症の治療が行われ、症状は改善し元気になりました。しかし、腫瘍摘出術後は昏睡となり、10ヶ月後亡くなりました。4年

目の時、同じ病気の9歳の女の子が入院して来ましたが、やはり水頭症を合併してましたので、シャント術が行われ、症状は改善しました。次週に摘出術が予定されていた週末に、私は両親を病院の外の喫茶店に呼び出して、自分の過去の経験と今は手術を回避して退院すべきであるという私の意見をお話しました。私としては一個人として自分にできる最良のことと考えての行動でした。翌日、患者さんは退院しましたが、すぐに私の行ったことはバレて、教授は医務室へやってきて、烈火のごとく怒り、机を引っくり返して、『貴様が生まれる前から俺は脳外科をやっている。貴様ごとき青二才に何が解るか!』と言われました。確信犯である私は医局を追放されるであろう覚悟はできてました。数分後、講師だった佐藤先生が来て、『上山。そこに座れ!今から教授の言葉を伝える。教授はな、上山って骨があるな!』と言っていた。だから明日からもちゃんと来るんだぞ!』と、話してくれました。これはもしかすると佐藤先生の作り話かもしれないと、ドキドキしながら翌日出勤しましたが、何事もなかったかのような日常が繰り返されました。結局、何のお咎めもなく、むしろ都留先生にはものすごく可愛がってもらいました。初期研修の6年を終えて、当時日本で脳卒中ではナンバーワンと言われていた秋田の伊藤善太郎先生のもとで研修できたのも都留先生の後押しがあったことでした。当時、イラストで解説する動脈瘤の手術書を作成中だった伊藤先生にとっては、絵が得意だった私は都合の良い存在だったんだと思います。しかし、幸運はすぐに絶望へと変わります。肝心の伊藤先生は、階段から転落して亡くなってしまったのです。享年44歳でした。今になって思うと、伊藤先生の数々の遺言?が、その後の私の人生を左右することになります(後述)。伊藤先生の葬儀の時、都留先生はすぐに北大に戻って来い!と言ってくれたのですが、不遜にも私は、伊藤先生の本が完成するまでは帰れません!と、千載一遇のチャンス自ら逃してしまいます。しかし、その3年後の11月18日について手術書が完成し出版されました。驚くことに、

翌月、秋田の安井先生(伊藤先生の後任の部長)のもとに、1月1日付で北大助手に命ずるとの採用通知が届きました。急遽、北大に戻り、翌年には講師に昇格しました。36歳の時でした。後の三代目の教授となる岩崎助教授や同期の井須先生の助けもあって、順調に仕事をこなしていました。数年後、慶応が主催する脳外科学会総会のビデオ・シンポジウムの取りの演者だった私のもとへ、すでに名誉教授となった都留先生が来て、一緒に晩飯を食おうということで、ステーキハウスに誘ってもらいました。席につくなり、『上山、今でも奇形腫を帰すか?』と、聞かれました。あの事件から13年後のことです。私は直立し、『いや、帰しません!』、更に言い訳を言おうとする私を制して、『いや、解ってくれたらそれで良い。飯を食おう!』と、何も言わせてくれませんでした。実は、あの事件の5年後、患者さんのお母さんから手紙が来ました。「先生のおかげで5年の命をいただきました。」と、5年後に患者さんがやせ細って死んでいったことを知らせる手紙でした。行間に、あの時手術を受けていたら?という疑問が浮かぶ手紙でした。13年前、私は自分にできる最良の選択をしたと自負してました。さらには、手術をした都留先生に恨みがましい気持ちもあったと思います。都留先生が、激しく怒ったのは、私が勝手に患者を退院させてしまったことだけではなく、私が最初に受け持った患者さんが術後に昏睡状態となった時、医局の中では、受け持ちだった自分が一番悲しいと思っていたのですが、本当に辛かったのは、術者である都留先生だったのです。そのことを全く理解しない(理解できない?)私が、一人前の術者になるまで、13年間、待っていてくれたのです。今、思い返しても涙が出て来ます。

自分なりに頑張ったつもりだったのですが、二代目の教授である阿部先生の人事構想にそぐわないという理由から、44歳の時に旭川赤十字病院に出されました。戦力外!という左遷です。通常、左遷された上司に付いて来る部下などいないのですが、私の場合、7歳年下の小林先生と中村先生が北大を辞

めて付いて来てくれました。そして旭川医大から、現在の私の後継者となっている谷川先生が来てくれたことから、北大時代に構想していた多くの仕事を始めることができました。このことがあったからこそ、NHKが来てくれて、今日の私があると言っても過言ではありません。都留先生や伊藤先生ら偉大なる先人のみならず、後輩である3人の先生方は、ある意味で、私の一生の恩人です。マスコミなどにもてはやされても、自分のペースを狂わさないで仕事できたのは、伊藤先生の遺言となったいくつかの言葉でした。『俺たちが諦めたら誰が助けるんだ!』、『患者は命をかけて医者を信じて、手術台に登る。お前は何をかけるんだ?』、『自分の受けた手術をしろ!』、『批評家になるな!いつも批判される側にいろ!』等々、多くの名言が現在の私を支えています。更に、番組収録中に思わず研修医に叫んだ私の言葉、『俺たちはな、患者の頭を手術してるんじゃない、患者の人生を手術してるんだ!』……

多くのスター選手が引退時、『自分が今日あるのは、自分を支えてくれた多くの人々のお陰です』と言う言葉を聞いていて、綺麗事言っただけだと思いましたが、自分の人生を振り返ってみると、確かに私は手先が器用で、手術が上手いです。確かに沢山努力もしました。しかし、臆病者で卑屈で小物である私が、実力以上の評価をもらっているのは、全て私を支えてくれた多くの人々のお陰だ!と!心底思います……。

令和元年10月27日



フラテ祭2019開催報告

フラテ祭実行委員会事務局

去る9月28日(土)、第13回目となる「フラテ祭2019」は北海道大学ホームカミングデーと同日に開催いたしました。同窓生、教員、学生親族、関連企業の方々など約100名が参加されました。

第1部では、現役医学部生による活動発表と施設・キャンパスツアーを行いました。ツアーでは、助教がツアーコンダクターとなり案内しました。施設巡りでは、新設したばかりの医学部

百年記念館のほか、クリニカルシミュレーションセンター・法医学解剖室・北大病院陽子線治療センター・北大病院検査・輸血部・遺伝子病制御研究所を見学し、日常では見ることのない装置に触れる等、体験しました。キャンパス巡りでは、学生団体HCVPの協力のもとバスで大学構内を巡り、生物生産研究農場・ポプラ並木・クラーク像等で途中下車をして楽しんでいました。

第2部の講演会・音羽博次奨学基金授与式では、浅香正博同窓会長のご挨拶により開幕し、音羽博次奨学基金授与式では12名の学生に奨学金が授与されました。また、吉岡充弘医学部長、秋田弘俊北海道大学病院長から講演が行われた後、引き続き、方波見謙一北海道大学病院救急科助教から「北海道大学病院における災害対応」と題した特別講演が行われました。最後に、医学部公認団体アンサンブル・フラテによる「学友会歌」「都ぞ弥生」が披露され、盛会のうちに終了しました。

今年度も多くの方のご支援とご協力

をいただき、無事にフラテ祭を終えることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。



第2部 方波見謙一先生による特別講演

医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第2回

医学部ゴルフ部

医学部3年
こばやし たかなり
小林 堯成

医学部ゴルフ部は各学年7~10名ほど在籍している部活です。ゴルフに対するスタイルは各部員の裁量に任されており、スコアを真剣に競い合う競技ゴルフ路線で練習に励む人、趣味としてのゴルフを楽しんでいる人、ゴルフをしていない人…様々な部員がいます。普段の練習は自主練が中心となっ

ており、北24条付近にある室内練習場で打ちっぱなしを行っています。もちろんコースに出なければ上達は見込めませんので、お手伝い(ポーター、キャディなど)をする代わりに、一般のお客さんがプレー終了後にラウンド練習に使わせていただいているゴルフ場が2、3か所あります。ラウンドというとい

的には高いお金を払って、その場からは一球ずつしか打てませんが、部員たちは無料で、時には様々なシチュエーションから何球も練習することができるという環境で、上達を目指しています。はじめのうちはお世辞にも上手いとは言えない部員ばかりですが、未経験で入部して5、6年生になる頃には70台で回れるまでになった部員も数人存在します。

大会の成績としては、2019年は東医体男子個人入賞という素晴らしい成績

を残した部員もいますが、団体では2016年に東医体男子団体優勝、女子団体3位入賞を果たしたのは弱体化が進行しており、部員一同奮起が期待されるところとなっています。

部員が集まって行う活動としては、東医体などの大会だけでなく、部内でのコンペ、OB・OGの先生方とのコンペ、札幌医科大学・旭川医科大学との交流戦などがあります。(現役部員医学部医学科57名)

東洋医学研究会

医学部4年
ごみかわ りゅう
五味川 龍

東洋医学研究会(以下東医研)は毎週火曜日の18時~20時に医学部食堂ミーティングルーム2室にて活動を行っています。授業であまり触れることのない漢方薬や鍼灸について勉強し、西洋医学と東洋医学の双方に精通した医師を目指しています。

主な活動として、当会のOBである八重樫稔先生(札幌マタニティ・ウイメンズ南一条クリニック院長)をはじめ実際に東洋医学に従事されている先生方にお越しいただき、現場に基づく知識や経験談といった実践的な内容を教

えていただいています。一方で、初学向けの基本事項を習得しやすい会員発表という機会も設けております。その他、伝統医学の古典である『傷寒論』を輪読するなど、多様な学習をしています。

北大祭では、東医研オリジナルカレーと飲み物を販売しており、特にカレーは例年売り切れてしまう大人気となっています。さらに、『北海道・東北東医研交流会』では、東北地域の東医研の方々とお会いし、各大学の発表を聞いた

2018年には北大が主幹校となり、その際に東北以南の東医研も招待しまして、現在交流範囲を広げつつあります。

このように楽しむ一方で、日本東洋医学会学術総会にも積極的に参加し発表しています。ありがたいことに、2019年の第70回学術総会では、当会が学生研究優秀発表賞を受賞することが

できました。以上のように、東医研は認知度は低いながらも活発に楽しく活動しています。2~4年生から入会した人も多いので、興味がある方は是非一度お越し下さい。現役部員数:医学部医学科25名 その他5名



アルバイト状況アンケート

てらしま ゆうき
寺島 祐樹(99期3年)

勉学を中心とし、部活動やサークル活動など私たちの学生生活を構成するものは多々ありますが、アルバイトもまた社会的、経済的な面で重要な位置を占めると思います。今回、1年生から3年生に、アルバイト状況についてのアンケートに回答していただいたので、この記事でまとめます。同窓会編集委員会に学生委員として参加させていただいているご縁で、僣越ながら私、寺島が記事を書かせていただきました。同窓会員の皆様には学生時代を思い出すきっかけとして、また在学生の保護者の皆様には私たちの学生生活の一部を知るきっかけになればと思います。早速ですが、アンケートの結果をグラフでお示しします。回答率の違いもありますが、各学年に傾向が見られて面白いですね。

まず1年生ですが、60%の学生がアルバイトをしていないと回答しています。北大の1年生は北18条駅が最寄り的高等教育推進機構(通称、教養棟)というところで、他学部の学生と一緒にクラスに割り振られます。医学科同士の繋がりはまだ薄く、クラス内でも全員一緒に受ける授業というのは多くないため、他学年で多く見られた交際費に使う額が少ないのかな、と思いました。

2年生、3年生は一緒に見ていきましょう。職種についてですが、『家庭教師』『予備校・塾講師』の割合が高いです。合わせて各学年約50%です。大学受験時に

己のために磨いたノウハウを、次の世代に伝えてくという選択肢ですね。やりがいは『生徒の成績が伸びてくれると嬉しい』『生徒の勉強面はもちろん人間性の成長を見られる』などから、ノウハウが必要なため『時給換算が高い』というものがありました。将来的に、後輩思いの素敵な指導医になってくれそうですね。

残りは『飲食店』『販売接客』など、お客さんに対応して物を売る職が多数派で各学年15%前後です。コミュニケーション能力が磨かれるから、飲食店で働いた経験は将来医者になっても生きるとおっしゃっていた先生がいらっしゃいますが、こちらも患者さん思いの素敵な医師になりそうですね。やりがいと

して『幅広い年代の人と話せる』と回答してくれた学生もいました。

さて、どれくらい働いているかですが、週1~2回の方が合わせて80%前後です。重厚な医学の勉強に加え、それぞれ部活動やサークル活動などをした上でのバイトで、週1、2回といってもそれなりにハードでしょう。

月あたりの収入に関しては、見事にばらけた印象です。だいたい2万~4万円/月でしょうか。中には月10万円以上稼いでいる方もいらっしゃるようです。

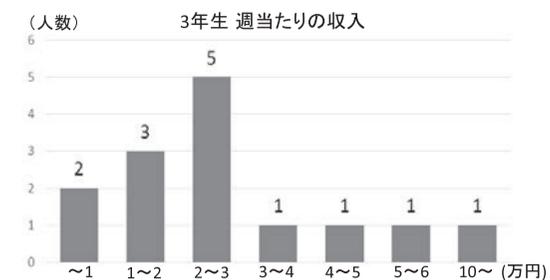
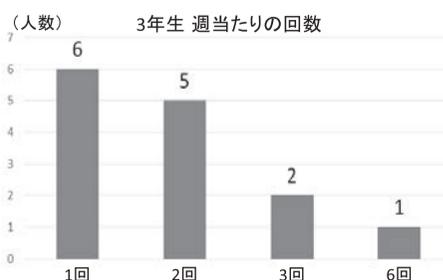
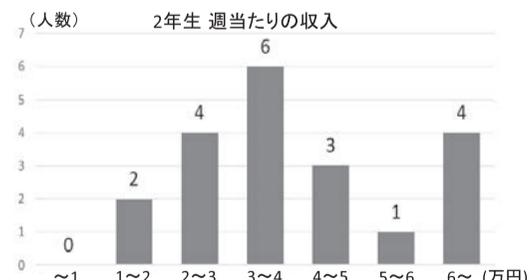
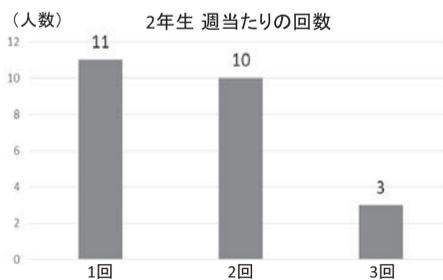
最後に回答してくれたやりがいの中からいくつか紹介いたします。『人知れず活躍してる感じがして良い』『高校時代の恩返し』『いい運動になる』『受験や勉強のことで落ち込んでる子とお話

して、その子が元気になってまた勉強へのモチベーションを取り戻してくれたとき、やりがいを感ずる』。それぞれどんな仕事内容なのか想像するのも楽しいです。

以上が、アルバイトに関するアンケートの結果でした。最後になりましたが、アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

学年別職種割合

	1年生	2年生	3年生
家庭教師	0%	29%	11%
予備校・塾講師	20%	39%	33%
飲食店	0%	7%	22%
販売接客	10%	7%	6%
していない	60%	7%	11%
その他	10%	11%	1%
回答者合計	10名	28名	18名



医学研究院・医学院・医学部の国際交流： 4氏の表敬訪問を受けました

医学部長・医学研究院長 **吉岡 充弘** (60期)

1. Chris O' Donnell博士 (ビクトリア法医学研究所：メルボルン、オーストラリア)

2019年9月24日、第8回死因究明教育研究センターセミナーの特別講演者として招聘いたしましたO' Donnell博士に「ビクトリア法医学研究所における死後画像診断」という演題名でご講演をいただきました。また、このセミナーは大学院共通授業「応用社会行動科学法医学」としても開講され、本学の大学院生の受講や、さらに同時通訳を準備し、一般の方々にも対象を広げ、開催されました。博士はその講演前に小職を表敬訪問され、オーストラリアのみならず世界レベルでの死後画像診断の現況と今後の発展性について、また死後画像診断を実施する人材育成について意見交換を行いました。



左から：吉岡医学部長、
ビクトリア法医学研究所のChris O' Donnell博士

2. Diana Paez博士 (International Atomic Energy Agency：IAEA、国際原子力機関) および玉木長良教授 (京都府立医科大学)

これまで、IAEAの支援のもと、アジアの国々でPET/CT、SPECT/CT、PET/MRの導入が相次いでおり、この地域の核医学専門医の教育・研修の重要性が増してきています。日本は日本核医学会後援のもとIAEAおよび大阪大学が主催する国際ワークショップを継続的に行っており、アジアの核医学の発展に寄与してきました。今回、アジアの若手の医師に核医学の教育ワークショップ「Regional Workshop on Clinical Applications of Cardiac Multimodality Imaging in Clinical Based Setting Including PET/CT」を本学医学部で行う事となり、IAEAのPaez博士と玉木教授が小職を表敬訪問されました。心疾患を中心に2019年9月30日～10月4日までの5日間にわたり幅広い心臓に関する画像診断を学んでいただきました。



左から：玉木長良北海道大学名誉教授、
国際原子力機関のDiana Paez博士

3. Trevor Sharp教授 (オックスフォード大学：オックスフォード、英国)

Sharp教授はオックスフォード大学神経薬理学教室で、セロトニン神経系の病態生理学的研究を専門とされています。日本で開催される国際学会への出席のため来日され、小職と同じ研究領域のため、そのスケジュールをぬって2019年10月8日、来校されました。次世代を担う基礎医学研究者育成や双方向の新たな留学プログラムの可能性について意見交換を行いました。



左から：吉岡医学部長、
オックスフォード大学のTrevor Sharp教授

理事会・評議員会報告

理事会

日時：令和元年11月5日(火)
午後6時30分から午後7時10分
場所：医学研究院 百年記念館
小会議室
出席：11名
(会長、副会長2名、理事8名)
同席：監事2名、評議員会議長、
副議長

【協議事項】

- 役員候補者選考委員会の設置について
現役員の任期が令和2年3月末日で満了することから、役員候補者選考委員会に関する要項に基づき、評議員会に次期役員候補者選考委員会を設置することが了承されました。なお、選考委員には西澤典子(56期)、篠原信雄(60期)及び矢部一郎(67期)の各氏が選考委員会委員に指名されました。
- その他
(1)北大医学部同窓会新聞縮刷版について
5月の理事会・評議員会で希望者が200冊に達した時点で作成することとしているが、現在130冊と目標に達していないが、今後は理事会・評議員等の皆さんに御協力をいただき、来年3月末に刊行することが決定されました。

【報告事項】

- 評議員、予備評議員の一部交代について
平成30年、令和元年度の2年間を任期とする評議員及び予備評議員について報告があった。
- 令和元年度庶務、事業報告について
庶務報告として、本年度の定時総会及び第96期生卒業歓迎会を来年2月10日(月)に医学部百年記念館で開催する旨報告があった。
事業報告(編集報告)として、同窓会新聞の発行状況、同窓会誌の表紙のデザインなど進捗状況について報告があった。
- 令和元年度会計収支中間報告について
本年9月末日現在の令和元年度会計収支状況について説明があった。
- 令和2年度以降の会費免除について
昭和39年卒業の第40期生は、本年4

月で卒業後55年を経過したので、会則第6条第2項により、令和2年度以降の会費が免除となる旨報告があった。

5. その他

- (1)医学部創立100周年記念事業について
浅香会長から、医学部創立100周年記念事業として建築された百年記念館の落成式及び100周年記念式典・祝賀会等についての実施状況について報告があった。
引き続き、吉岡副会長から100周年記念事業が無事終了したことに対して謝辞があった。
次に、創立100周年記念事業のうち寄附金事業については、再来年3月まで継続して医学部の学生支援基金及び研究支援基金の充実を図るとの説明があった。

告知板

<学内・院内人事異動>

<辞職>

令和1年9月30日 杉山未奈子(81期) 小児科 特任助教 (国立がん研究センター)
令和1年12月31日 鈴木 智貴(91期) 神経生理学教室 助教 (ロックフェラー大学 博士研究員)
吉田 隆行(会員2) 神経薬理学教室 助教 (広島大学医学研究科 准教授)

<採用>

令和1年11月1日 原田太以佑(84期) 死因究明教育研究センター 特任助教
令和1年12月1日 青山 英史(70期) 放射線治療学教室 教授
令和2年1月1日 折茂 達也(76期) 消化器外科学教室 I 助教

<第43期卒業53周年記念同期会日程>

第43期の皆様へ：卒後53周年記念同期会は2020年6月27日(土)、札幌プリンスホテルで開催を予定しております。

正式には2020年「春の通信」にてご連絡します。

(43期評議員 三上一成)

<令和元年度 北大医学部 東京フラテ会総会のご案内>

令和元年度の東京フラテ会総会を、下記のとおり開催します。同期知友の皆様お誘いあわせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

(地下鉄 神保町駅 A-9出口 1分)
東京都千代田区神田錦町3-28
Tel 03-3292-5936
会費：12,000円、但し新卒から84期までは5,000円

「Academic Surgeonを目指して：北大よりドイツ、東京へ」
<講師：東京慈恵会医科大学 心臓外科学講座 教授 國原 孝先生(67期)>
議事：午後6時30分から6時45分
203号室
懇親会：午後7時00分から 202号室

東京フラテ会 会長 畠山 昌則 (57期)

【お問い合わせ】事務局
武蔵村山病院長 鹿取 正道 (67期)
Tel 042-566-3111 (代)
e-mail mkatori@yamatokai.or.jp

日時：令和2年3月14日(土)
午後5時受付開始
会場：学生会館 2階

講演会：午後5時30分から6時30分
203号室

事務局からお知らせ

ご寄付の報告とお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

ご寄付をいただいた場合、ご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感

謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

電話：011-706-5007

E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不用になった名簿は、例えばシュレッダー処分または焼却処分をお願いいたします。なお、ご自身で処分が困難な方は、レターパック等で同窓会事務局へ送ってください。

なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

〒060-8638

札幌市北区北15条西7丁目

北大医学部百年記念館

北海道大学医学部同窓会事務局

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入方法

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかによります。

※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超える会員には、会

員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

・会費納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除とな

ります。

・39期生は令和元年度から、40期生は令和2年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費がある会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、**随時募集を行っています。**

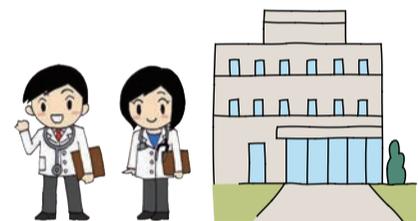
現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」「医療・がん保険」「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話：011-706-5007

E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp



北大医学部同窓会新聞縮刷版の発刊について

医学部同窓会では、本年4月に医学部が創立100周年を迎えたことから、その節目を記念して101号～150号の縮刷版を発刊することが11月に開催された評議員会で決定され、3月末に発送する予定であります。

既に購入を希望されている方には、2月に振込通知書等を送付いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

なお、これから購入を希望される方は、医学部同窓会事務局までお問い合わせくださいようお願いいたします。



3月末日刊行予定

総会、卒業生歓迎会のご案内

同窓会総会

令和元年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。

日時：令和2年2月10日(月)午後6時より

会場：北海道大学医学部百年記念館(2階)

多目的ホール

所在地：札幌市北区北15条西7丁目(北大構内)

議事

1. 協議事項(予定)

(1)平成30年度会計収支決算

(2)平成30年度会計監査

(3)その他

2. 報告事項(予定)

(1)庶務・事業報告

(2)令和元年度会計収支中間報告

(3)その他

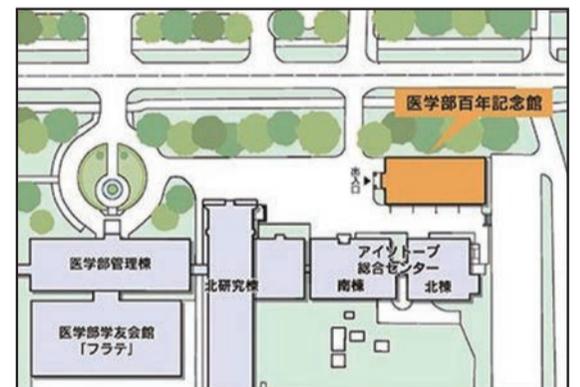
総会終了後、令和元年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。

卒業生歓迎会

総会終了後の午後7時より、(1階)大会議室において、第96期生の卒業歓迎会を開催します(参加費は無料)。

ご参加いただける方は、電話又はメールにより1月20日(月)までに同窓会事務局へご連絡ください。

同窓会事務局が10月中旬に医学部百年記念館内に移転いたしました。



フラテ106号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも校友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。

さて、我々フラテ編集部では、今年3月発行予定の「フラテ106号」の発行準備を進めております。昨年9月に「フラテ各地に行く」取材で滋賀に伺いました。滋賀医科大学の臨床科、研究室や日本有数の規模を誇る動物生命科学センターを見学させて頂きました。また、滋賀・関西近辺でご活躍される先生方のお話を伺う機会を頂きました。今年は比較的低学年の部員が多く部員は緊張した事と思いますが、親切な先生方に恵まれ積極的に話を伺えたと思っています。今回の取材内容は「病院見学」、

「フラテ各地に行く」として106号に掲載予定です。

加えて106号では海外経験豊富な学生の寄稿、北大医学部100周年記念記事、女性医師インタビュー等の掲載を予定しております。「フラテ」は学生団体として取材・編集を行っております。どの記事も読者の皆様楽しんで頂けるよう編集作業を行っておりますので、ぜひ一度購読下さい。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙にてお支払いをお願い致します。バックナンバーもご用意しております。すでに105号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。二重申し込みをされませんよう、ご注意ください。

106号の主な内容(予定)

- ・特集記事
「北大医学部100周年記念記事」
- ・秋田病院長就任記念インタビュー
- ・フラテ各地に行く 滋賀編
- ・教室だより、各教室の勉強会、説明会一覧
- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ
市立札幌病院 小児科
工藤 絵里子 先生へのインタビュー
- ・茶苑
- ・学生の広場

フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等を投稿頂けます。多くの学生が読ん

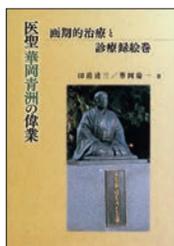
でおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。

様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数：自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

フラテ編集部
E-mail: frate.med@gmail.com
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内

新刊書紹介



「医聖華岡青洲の偉業 画期的治療と診療録絵巻」

たなべ たつぞう
田邊 達三(30期)、
はなおか けいいち
華岡 慶一(60期) 著
※入手ご希望の方は、
同窓会事務局までご連絡を
お願いいたします。

本書は、本邦における外科学の父といえる華岡青洲先生の御業績を、華岡家所蔵の彩色奇患之図に基づき現代外科学の視点で解説した名著である。著者である田邊達三先生(30期)は日本外科学会会長をはじめ要職を歴任され、日本のみならず世界の外科学界の泰斗である。メスをおいたあとも外科領域を含め医学史に関する研究を精力的に進められ、多くの著作を残されている。本書は、その中で江戸時代に現代外科学の礎を築き上げた華岡青洲先生の御業績を丁寧に、そしてわかりやすく著述されたものである。本書のページ

一枚一枚に、田邊達三先生の華岡青洲先生に対する尊敬と愛情を込めた解説とともに、華岡家所蔵の重要な資料が美しいカラー写真で掲載されている。華岡青洲先生の御業績で広く知られているものが、通仙散を用い全身麻酔下に乳がん手術に成功したことである。しかしそれ以外にも「内外合一、活物窮理」の医学理念に基づき数多の疾患に対し診断・治療を精力的に行っておられたことは必ずしも知られていない。江戸時代という鎖国の日本において、創意工夫、するどい洞察力、適格な実践力で現代に通じる医療を築き上げた華岡青洲先生の一生は、本書を読み終えた私には外科学をベースにした一大叙事詩のように感じられた。現代を生きる多くの医師、特に若き多くの医師にぜひ読んでもらいたい一冊である。

(60期 篠原信雄)



「わかってほしい! 子ども・思春期の頭痛」

ふじた みつえ
藤田 光江(46期)
南山堂
¥1,980

2019年11月22日に、筑波学園病院小児科の藤田光江先生(第46期)が、小生の存じ上げる限りご自身3冊目の一般向け頭痛読本「わかってほしい!子ども・思春期の頭痛」を南山堂より出版されました。前作である「子どもの頭痛一頭が痛って本当だよ」「0歳-6歳の子どものもつお母さんの悩み相談室」と同様に、先生の豊富な臨床経験と優しい人柄を反映する、大変読みやすく分かりやすい内容になっており、図やイラストも豊富に入っています。一般向けの書籍なのですが、小生のような頭痛専門医にとっても小児の頭痛は難

しい面があり、読んでいてなるほどと頷かされる部分もあります。藤田先生は小児頭痛学の草分けで、長年日本頭痛学会の理事を務められ、現在でも小児の頭痛診療の世界的エキスパートとして、筑波学園病院と東京クリニックで診療される傍ら、多くの学会等でご発表をされています。優しいお人柄なのでこちらでも色々相談しやすく、特に同窓の先輩でもあり、頭痛学会等では難しい小児症例の教えを乞うている次第です。この本の内容は症例も豊富に提示されていて分かりやすく、診断に関しては国際頭痛分類の最新版である第3版に即しています。治療に関しては慢性化した症例には心理的側面を重視され、小児心療内科の先生にも役立つのではないかと思います。小児科に限らず、頭痛診療に携わるすべての科の先生方には是非読んで頂きたい1冊です。

(54期 北見公一)



「なぜ援助者は燃え尽きてしまうのか」

かずかわ さとる
数川 悟(50期)
南山堂
¥1,944

本書は、医学部50期の富山県在住の精神科医、数川悟先生が著されたメンタルヘルスに関する読みやすい著書である。先生は、本学を卒業後、金沢大学、富山医科薬科大学勤務を経て、1990年から、富山県心の健康センターに勤務し、所長として、四半世紀余りを地域精神保健福祉活動に従事された。

特に、ストレス関連でのメンタルヘルス対策の第一人者で、研究や地域住民への普及啓発に貢献されてきたが、本書は、そうした経験に基づき、医療職や援助職の労働に関わるストレスを主題として扱っている。燃え尽き症候

群のわかり易い事例と解説、さらに、近年、この分野で注目される「感情労働」についても取り上げている。

対人サービスの極みである医療職・看護職は、ひどい損壊や重度の外傷を抱える、治療の成功が極めて難しい事例においても、「自分たちが何とかしなければ」と力を尽くそうとする。その困難事例に関わる看護職や援助職には、患者への「共感疲労」が蓄積する。

こうした感情労働や援助の過程の心の危機に関し、種々の現象や概念について、精神科医の視点から読みやすく解説し、対応策にも具体的に触れている。短歌をたしなみ、謡曲、観世流の師範でもある著者が、ライフワークを軽やかに纏めた一書である。

(53期 田辺等)



「ひとりでも最後まで自宅で」

もり きよし
森 清(63期)
教文館
¥1,404

「ひとり暮らしでも、覚悟があればリスクを承知した上で最後まで家にいることは可能である」長年、東京の西部、多摩地区にて在宅医療に携わってきたエキスパートである著者は訴えている。

要介護者となった時、施設に入ること希望するのか、自宅で最後まで過ごしたいと希望するのか、一番確認されるべきは本人(利用者・患者)の意思である。その意思決定を支援することの大切さは今日も強調されるべきで、本人の意思は重んじられるようになってきた。それでも病院では「キーパーソン」の意見ですべてが決まることも

あり、将来はキーパーソンという用語が死語になることを願うという。ましてやひとり暮らしである。要介護者がひとり暮らしするなんて出来るはずがないと諦めている病院や事業者がほとんどかもしれない。ひとり暮らしの高齢者は増えつつあり、今後も増加することは確実視されている。

地域の「互助の網」から漏れた多くの人の助けになるように介護保険が始まり、地域包括ケアシステムの構築が進められている。多くの人たちの支えによって、ひとり暮らしが出来ることは明らかである。独居高齢者は多くの職種の方々の協働と連携によって守られるものである。

要介護者になってもひとりで自宅で暮らせるように、要介護者の立場から、医療・介護者の立場から具体的に明示して教えてくれている。

(63期 山口則之)



「糖尿病治療薬の 効果的活用 基本から最新エビデンスまで」

みよし ひであき
三好 秀明(69期)編著
医学と看護社
¥4,950

糖尿病患者は予備軍も含めると2000万人を超すと報告されており、専門医以外が診療にあたる機会も年々増えてきている。また高齢化や肥満などの社会問題は医療界にも反映され、糖尿病患者も多様性を増している。個別化医療が叫ばれる中、糖尿病に対する処方も新たなエビデンスの出現により大きく変わろうとしている。このような状況下で三好秀明先生(69期)が同門の若手の先生方とともに上梓したのがこの本である。

「糖尿病治療薬」と銘打っているが、糖尿病患者の初診時の対応・病歴聴取からインスリン分泌能や合併症検査、食事療法、

肥満外科手術に至るまでの薬物療法以外についてもしっかりカバーした第1章から始まる。続く第2章は各薬剤のエビデンスを古くとも重要なものから最新のものまで網羅しており、糖尿病治療のトレンドを理解するうえで重要な章となっている。第3章では現在の薬物療法の基本となっているピグアナイド薬、DDP-4阻害薬、SGLT2阻害薬を中心に作用・副作用などの基本から実践的に各薬剤が適した患者・適さない患者像を示すことで個別化医療への道筋を示している。第4章ではこれまでの内容を実際の症例を通じて振り返る構成となっており、通読することでタイトル通り糖尿病治療薬の「効果的活用」が身に付くはずである。活字は大きくて見やすく、各項目は図も多く簡潔にまとめられており読みやすく工夫されている。本書は専門医のみならず、糖尿病診療にかかわる諸先生方の座右の書としても役立つ名著であり、是非、手に取って読んでいただきたい。(64期 渥美達也)



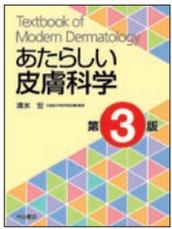
「実は知らない 循環器希少疾患 どう診る? どう対応する?」

あんざい としひさ
安斉 俊久(会員2)著
南山堂
¥6,930

本書は、心不全、虚血性心疾患、不整脈などの背景に潜んでいるが、早期診断・治療が重要である希少疾患に焦点が当てられている。希少疾患の中でも近年、サルコイドーシスではステロイド治療の有効性が確立されており、アミロイドーシスやFabry病などに関しては、新規治療法の開発も加速度的に進んでいる。また、根本的治療法が存在していなくても、希少疾患の確定診断が得られれば、患者は自らの病気や症状に関してさまざまな情報にアクセスすることが可能になり、患者会での相談や指定難病に対する医療費助成な

どにより、心理的・社会的な負担を軽減することが可能になる。こうしたことから、希少疾患を見逃さずに早期の段階で治療を開始する重要性は年々高まっており、総論ではそれらを見逃さないためのポイントやノウハウが網羅されている。また、各論では、希少疾患のなかでもしばしば経験するものについて、病態や診療に関する最新の情報が記載されている。さらに、日常で経験することが少ない希少疾患の診療を疑似体験できるように、カラー画像なども豊富に取り入れられている。本書によって、一人でも多くの未診断の患者が、正確な診断のもとに適切な治療とサポートを受けられるよう、循環器内科にとどまらず、日々の診療に携わるすべての医療従事者にお勧めしたい1冊である。

(89期 甲谷太郎)



「あたらしい皮膚科学 第3版」
 しみず ひろし
 清水 宏(会員2)著
 中山書店
 ¥8,580

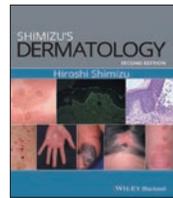
北海道大学医学部皮膚科教授、清水宏先生の書かれた「あたらしい皮膚科学第3版」(2018年、中山書店)は、2005年初版、2011年第2版に続く大改訂版で、皮膚科領域では最も有名な皮膚科教科書としてトップセールスを誇っています。初版発刊の2005年以来、皮膚科の医師はもちろんのこと、全国の医学生生の50%以上がこの本で皮膚科学を勉強しているとのことで、すでに総計6万部以上出版され、皮膚科以外の医師にも愛読されているそうです。また皮膚科専門医試験のバイブルとしても活用されており、皮膚科学の教育にお

ける日本のスタンダードな教科書として広く読まれています。

近年の皮膚科学の進歩は顕著であり、清水先生は、この本を通じて常に「あたらしい」情報を提供したいと考え、第2版発刊後、医学部教授としての忙しい業務の時間を割き、こつこつと約7年間の年月と全身全霊をかけて本書の内容を精査したと聞きます。

第3版では、初版、第2版の必要なことは漏らさず、毎日の診療実習に携帯しやすいコンパクトさは継承されました。また、第3版は表紙カバーを外しても使いやすいように工夫が加えられました。鮮明な臨床写真がふんだんに使われて大変見やすくなっており、皮膚科専門医を目指す若手皮膚科医はもとより、皮膚科以外の先生方の日常診療のおともにも大変重宝されるだろう1冊です。

(79期 夏賀 健)



「Shimizu's Dermatology」
 しみず ひろし
 清水 宏(会員2)著
 Wiley-Blackwell
 \$166.25

Shimizu's Dermatologyは、その名の通り、北海道大学医学部皮膚科教授、清水 宏先生の単著の英文皮膚科教科書です。昨今の教科書は、編集長の意向に基づき、章ごとに違う執筆者が書くことが一般的ですが、本書は、清水先生が長年の臨床、教育、研究の経験と成果に基づき、教室運営に忙殺される中、8年という時間をかけて、毎日の努力で粘着に書き上げた自信作です。清水教授は、日本語皮膚科教科書のバイブル的存在である「あたらしい皮膚科学」の著者としても有名ですが、この「Shimizu's Dermatology」は「あたらしい皮膚科学」の英語版という位置づけであるのに加え、日本語版の内容を

さらに充実させ、updateしています。「Shimizu's Dermatology」は平易で理解しやすい英文で書かれており、臨床写真も多く、見やすいため、外国人の患者さんに説明する時も大変重宝します。また、本書は、現在日本で行われている皮膚科診療のエッセンスや奥義を、広く、世界に発信する本であるとも言えますし、写真のほぼすべては日本人の臨床写真であるため、白人中心の欧米の教科書と大きく異なり、黄色人種に好発する皮膚病変を理解する上で、重要な役割を果たしているとも言えましょう。日本人医学者が書いた医学教科書が英語圏の国々で発売され、その結果、世界中で広く読まれるに至ったことについては、大変珍しく、そして嬉しいことであり、その意味においても本書がいかに挑戦的であるかがうかがえます。「Shimizu's Dermatology」は、日本のみでなくグローバルな観点で皮膚科学に貢献すると期待されます。

(79期 夏賀 健)

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：令和元年は第94巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和42年から実施)

- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況(平成31年1月1日現在)

- ・一般会員 668名(年会費 4,000円)
- ・学生会員 9名(年会費 1,000円)
- ・特別会員 74団体(年会費 25,000円)
- ・名誉会員 142名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○「北海道医学雑誌」の原稿募集

- ・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY(Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。
- ・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。

- ・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
- ・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。



○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
 電話：011-706-5007
 E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp



同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。
特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。
 口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。ホームページからもダウンロード出来ます。必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。
 電話：011-706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp



同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ご逝去者 新聞164号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2012年	徳中 荘平	49	7月21日	曾 瑞 鶴	24
11月15日	富川 憲知	専7日	8月2日	花野 幸雄	23
2018年			8月8日	伊波 茂雄	32
	中出 隆三	30	8月27日	市川 健寛	22
11月29日	吉田 彰	専5	9月1日	山田 香織	39
2019年			9月30日	中山 健二郎	38
1月9日	内田 多久實	59	10月7日	越野 紹道	専7日
4月21日	手戸 一郎	33	10月12日	工藤 正純	44
5月6日	岩 喬	25	10月17日	高山 哲	39
5月13日	篠原 精一	33	10月18日	土浦 輝夫	専6日
6月25日	田口 俊夫	専6日	11月13日	三屋 喜久夫	47
7月7日	谷口 定二	専5	11月29日	柴田 昇	専6日

一面の写真説明

「医学部百年記念館」外観

この百年記念館は北海道大学医学部のみならず北海道大学の新しい顔として、また、レガシーとして存在し続けることと思います。

北海道大学医学部は100周年という大きな節目を越えて、さらなる100年へ向

かって歩み始めます。我々はこれからも北海道大学医学部・医学研究院がさらに発展できるように、また今まで以上に大きな貢献が出来るように、教育・研究・診療が三位一体となった我々の重い使命に全力で取り組む所存でございます。

(記念館落成式医学部長挨拶より 60期 吉岡 充弘)

編集後記

医学部百年記念館が完成し、北海道大学医学部創立100周年記念式典など多くの行事が執り行われました。本号はそれらの記事をたくさん掲載しております。お楽しみいただければ幸いです。医学部百年記念館は古い寺院を連想させる外観

で、緑の多い北大の風景に溶け込んでいるような佇まいをしています。折しも、東京オリンピックの男女マラソンと競歩が札幌開催となりました。今から楽しみにしております。

(71期 田中 敏)

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
<http://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>

印刷所 **大日本印刷(株)** 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号 代表(011)750-2205